

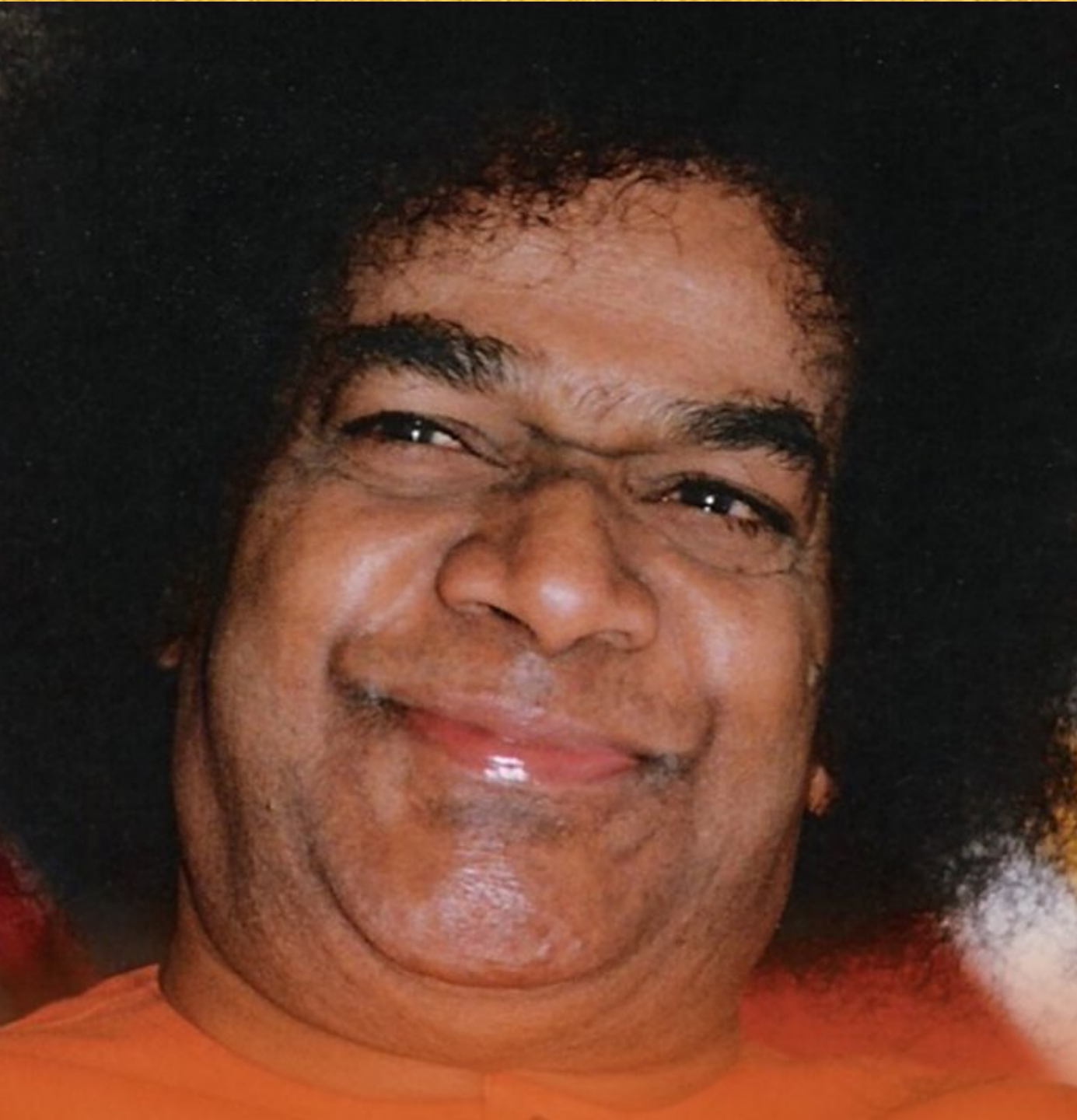


# SRI SATHYA SAI RAM NEWS

LOVE ALL SERVE ALL  
HELP EVER HURT NEVER

No.221\_222 / 9\_10月号 / 2023





## CONTENTS



● サイの御教え

「創造の神秘」「最終目標に意を定めなさい」  
「第一の敵」「パール・ヴィカスの生徒たちへ」

● サッティヤム・シヴァム・スンドラム

● Sri Sathya Sai Baba 様ご生誕100周年記念ヴィジョン

「人生は挑戦、それに立ち向かいなさい」  
「人生はゲーム、それをプレイしなさい」

● ワカ チンナ カタ

「プタリーバーリー」「模範的な母親」

● サイと共に

● ベジタリアン クッキング

「メティアルー豆苗とポテトのインドカレー」

● 帰依者体験談

● 活動報告：スタディー サークル

● 活動報告：全国センター・グループ活動

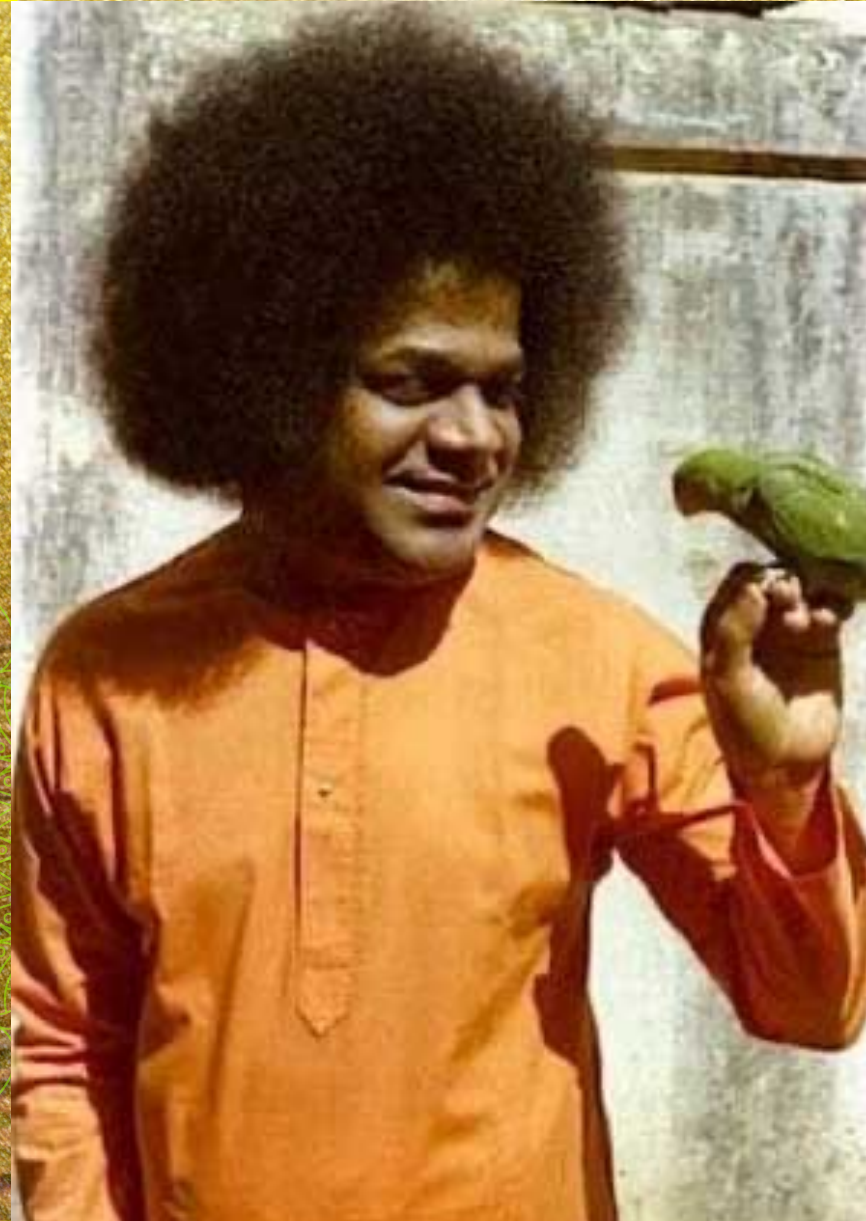




## サイの御教え

### 創造の神秘

1992年夏期講習の御講話



この世の鳥や獣は  
教育を受けていないにもかかわらず  
節度ある生活を送っている  
人間は知能に恵まれているのに  
なぜそのような感覚に欠けているか？

神の愛の化身たちよ！現代人は、鳥のように空を飛び、魚のように海を泳ぐ方法を身につけました。しかし、地上で人としてどう生きるべきかは、身につけていません。科学は空を飛ぶことや海を泳ぐことを人間に教えることができます。しかし、人は地上で人としてどう生きるべきかを教えることができるのは宗教だけであり、科学にはそれはできません。ですから、もし科学が人間の全面的な発達を促そうとするならば、宗教の助けを借りなければなりません。宗教とは、いくつかの教義に盲従することではありません。宗教は、人が識別力と神聖な価値に基づいて人としての生の最終目標に到達することを、助けるものです。

すべての宗教〔伝統宗教〕は、  
善いことだけを教えている  
それらを正しく理解して、人生を律するべし  
自分の心が善良であれば  
宗教の中に悪を見つけることができようか？

ですから、どの宗教も決して悪いものではありません。



せん。だからこそ、偉大な科学者アインシュタインは、科学なき宗教は不具であり、宗教なき科学は盲目であると公言し、人類の必要に応えるためには、科学と宗教の分別ある結合が必要である、ということ 강조했다 のです。

### すべての宗教は人間的価値を強調している

宗教は、統合的な人格の発達を促進する上で、非常に大きな助けとなるものです。宗教は、多様性の中の単一性を強調しています。真の宗教は、すべての宗教の調和と単一性を説いています。すべての宗教の本質と目的は、マインドとハートの清らかさを達成することです。どの宗教も独自の戒律と原則を持っています。しかし、憎むことや非真や不義を教えている宗教はありません。「真実を語りなさい」、「正義を実践しなさい」——ウパニシャッドはそう指示しています。同様の聖なる指示は他のどの宗教にも見られます。

このように、すべての宗教は人間的価値を強調し、人類の適切な進歩と発展のための道標として役立っています。それらはすべて、人に内在する神性の顕現を促進するものです。ところが、現代人、特に若者は、古くからの文化や神聖な価値を忘れ、現代の科学技術に誘惑されて、神に別れを告げています。

しかし、時が経つにつれ、科学者自身も、宇宙は何らかの神聖な力に導かれている、支配されている、という見解に傾いてきました。宇宙に存在する無数の星や惑星は、とてつもないスピードで回転しています。もし、その軌道や速度から少しでも外れたら、宇宙の大惨事となるでしょう。いったい誰がその速度や軌道を守るよう命じたのでしょうか？

### 科学者と創造主の違い

現代の科学者は人工衛星を作り、それらは地球の周りを回っています。しかし、それらの衛星は数日か数ヶ月で墜落したり炎上したりしています。一方、神の創造物である惑星は、太古の昔から規則正しく周回し、墜落したり炎上したりすることはありません。光は、秒速18万6千キロマイルで進みます。これだけのスピードがあっても、光が太陽や星団や星座の周りを回るには何年もかかります。天の川には私たちの知らない星が無数にあります。その中には、誕生から長い年月を経ているにもかかわらず、まだその光が地球に届いていない星もあります。科学者でさえ、創造物のこういった側面を完全に理解することにおいては、沈滞しています。創造の神秘のほんの一部を発見しただけで誇らしげに慢心を膨らませる科学者と、何の誇示も慢心もなく、平安に、静かに、忍耐強く、愛情深く全宇宙を動かしている創造主（神）の違いは、どれほどのものでしょう！

これだけではありません。創造物すなわち自然界が機能するための方法は、言葉では表せないほど驚くべきものです。例えば、人間が吐き出した二酸化炭素は植物に取り込まれ、植物が放出した酸素は人間に吸い込まれます。自然界におけるこうした互恵的な取り決めは、誰が作ったのでしょうか？ プランタラダーサといった詩聖たちは、全能の主への賛美を次のように歌っています。

山の岩の隙間に生える小さな灌木（かんぼく）や、

巨大な樹木に水をやり、

手入れをし、育ててきたのは誰か？

美しい孔雀（くじゃく）の体や尻尾を、

これほどまでに魅力的な色で描いたのは誰か？

緑の体と赤いくちばしという、

オウムのすばらしい配色をデザインしたのは誰か？

科学者は、こうしたこと的一切を「自然の法則」だと言い抜けるかもしれません。しかし、科学者は、自然を超越することや、自然界に存在する物質なしで済ますことが、できるのでしょうか？

### 科学者たちの「創造」と言われているもの

科学者が自分たちの「創造」と主張しているものは、自然界に存在する基本的な物質の組み合わせから得られたものにすぎません。例えば、科学



者は水素と酸素を組み合わせることで水を作り出します。ですが、では、どこの科学者が水素と酸素を生成あるいは創造したのでしょうか？ これらの元素は太陽の光によって生成されます。同様に、科学者が作り出すものはすべて、自然界にすでに存在している物質の順列と組み合わせに基づいているのみです。この事実は、ほとんどの科学者が都合よく無視しています。自然のミステリーや神秘に思いを馳せるとき、愚か者でさえ、それらのすばらしい現象の背後にある、神聖な力の存在を認めざるを得ないでしょう。

別の例で考えてみましょう。世界には50億8千万人近くの人類がいます。しかし、これほど莫大な数の人口の中で、二人が全く同じ顔の人はいない、というのは驚くべきことです。神以外、どのクリエイターがこれほど超絶な業をなせるのでしょうか！ 現代のクリエイターが製作する品物は、同じ型で作られるため、どれも同じです。なんとという違いでしょう！ ですから、学生諸君は、創造の神秘を理解するよう努めるべきです。

### 自然界のバランスを崩す科学者たち

私たちには、被造物を軽く見て、被造物は知覚を有しない自然にすぎない、と考える傾向があります。そのため、それこそが自然を制御し、自然のさまざまな構成要素の間に適切なバランスを与えているも

のである、知覚を有する原理を無視しているのです。科学者や科学技術者たちは、利己的な興味や名声を追い求め、社会と国家の安全と幸福にはまったく注意を払わず、自然のバランスを崩して、社会全般に災害や損害や苦痛を招いています。例えば、海水には地球で必要とされる10年分以上の空気が含まれています。空の一回の雷は全世界で必要とされる電力のゆーに20年分を放出します。

巨大なダムを建設して大量の水を一ヶ所に貯めることで、その土地の地盤が沈下し、その結果、シーソーのように別の土地の地盤が上昇します。科学者や科学技術者による、鉱物、雲母、石炭、石油、その他のオイルを掘り出すための、さまざまな種類の鉱山など、天然資源を無差別に開発することは、五大元素のバランスを崩し、汚染をもたらし、地震や噴火といった大災害を引き起こします。

産業、工場、自動車などの急激で過剰な増加は、大気汚染と共に、好酸球増多症、喘息、難聴、肺炎、腸チフスなどの増加の原因となっています。しかしながら、科学それ自体は悪くありません。必要なのは、人間が思慮分別を持って科学を正しく使うことです。

**学生は神の存在を信じていなければいけない**

現代の学生たちは、科学者の言うことを盲信し、疑うことなく信じています。その一方で、どんなにやかましく言われても、神への信心を持ちません。親愛なる学生諸君！ 第一に、神の存在を信じることです。その単純な理由の一つに、あらゆる言語の辞書には、他のさまざまな単語に混じって「神」という単語が入っている、ということがあげられます。どんな辞書にも、鳥や獣といった生き物や、無生物など、この世に存在するものを指す単語しか載っていません。この世に存在しないものは、辞書には載っていません。「神」という単語がすべての辞書に載っているという事実は、神の存在を証明するのに十分です。たとえあなたが辞書に載っているもののいくつかを見たことや体験したことがなくても、それを見たり体験したりした人たちは他にいます。

ですから、辞書に記載されているものの存在を、あなたの限られた経験に基づいて否定することはできません。あなたが神を体験していなくても、神を体験した人がいるからこそ、「神」という単語が辞書に載っているのです。「空花（空華：くうげ）」（sky-flower）、「兎角（とかく）」（rabbit-horn）など、この世に存在しないものを指す単語もある、と主張する人もいるかもしれません。しかし、それらは単語ではなく別の2つの単語を組み合わせた複合語である、ということをつかまなければいけません。「空」と「花」という単語は、それぞ



在するものを指しています。同様に「兎（うさぎ）」も「角（つの）」も存在します。しかし、「空花」「兎角」という人工的な造語に当てはまるものは、この世には存在しません。

### 神の創造物の神秘

ある科学者が、霊性用語で使われているパラマ・ハムサ（至高の白鳥）という単語の意味を知りたがりました。その科学者は、白鳥がミルクの混じった水にくちばしを浸してミルクと水を分けるように、パラマ・ハムサは適切な探究とその結果としての知恵によって、アートマ（真我）とアナートマ（真我でないもの）を分けるのだ、と言われました。科学者が逆に、白鳥にミルクと水を分ける能力を与えたのは誰か、と問われると、科学者は、白鳥のくちばしから分泌される酸がミルクの混じった水に触れると、酸がミルクを硬化させ、ミルクと水を分離させるのだ、と答えました。しかし、であれば、その酸を白鳥のくちばしに入れたのは誰か、という疑問が生じてきます。どこかの科学者が入れたのでしょうか？ いいえ、そのようなことをするのは神だけです。これは、まさしく、神の創造物の神秘です！

今から50年ほど前、科学者たちは「原子エネルギーに勝るものはない」と考えていました。もしこれ以上、原子力の核分裂を進めたら、大惨事になる

と恐れていました。しかし、この50年の研究と実験の後、科学者たちは、原子力よりも大きな力があることを発見することが可能になりました。同様に、今は神の体験がない人も、例えば、10年後には体験するかもしれません。神性はすべてに浸透しています。このことを固く信じることです。神への信心がなければ、人としての生は無駄になってしまいます。物理科学と共に、少なくともスピリチュアル・サイエンス〔精神科学／霊性の科学〕をある程度は理解するよう努めるべきです。

### 不必要な疑念に余地を与えない

最近の学生は、不必要な疑念に余地を与えるようになりました。ある青年が私のところにやって来て言いました。

「スワミ！ シャンカラは、ブラフマンは実在で、世界は幻である、と断言しました。ですが、実在すると言われるブラフマンは、どこにも見えません。一方、私たちは、日常生活の中で、幻の世界と言われるものを、利益と損失、喜びと悲しみの一切と共に、それも1年や2年どころか、何年もはっきりと体験しています。それなのに、どうしてこの世は幻想だと信じられますか？」

それに対して、私はこう答えました。

「私のいとしい青年よ！ そのような疑問について考えて、時間を無駄にしてはいけません。なぜ、ブラ

フマンやこの世の実在性や非実在性について気をもむのですか？ その疑問はそれら（ブラフマンとこの世）に任せておけばよいのです。まずは、自分自身の真実を見いだすことです。あなたは、自分は実在すると思っているかもしれませんが、けれども、実在すると見なされるのは、過去・現在・未来という3つの時間すべてにおいて、どんな変化もしないものだけです。この基準に照らし合わせると、あなたの体は、刻々と変化し、また、いつでもすっかり消滅してしまう可能性もあるのですから、幻であると見なされます。同じことが、この世の他のものについても言えるのです」

現代の若者は、自分は何も変わらないと主張して、自分の体は、生まれた時、幼少期、青年期、成人期、老年期、死ぬ時と、刻々と姿が変わっていくことを免れない、という事実を忘れてしています。このように、この世のすべてのものは刻々と変化しており、それこそが、この世は幻であるとされる理由なのです。シャンカラは、この世はまったくの非実在である、とは言っていません。シャンカラがこの世は幻だと言ったのは、この世には実在と非実在が混在し、ある時は現れ、ある時は消えるからです。しかし、学生諸君は、幻の世界の根底には実在の基層がある、ということを理解すべきです。これは、今、私のテーブルの上にある銀のお皿で説明することができます。このお皿は、明日にはコップに、あっという間に



はスプーンに変えることができます。けれども、そういった変化する名前や形態の中に潜んでいる物質は、変化することのない銀であり続けます。それでも、銀とカップ（あるいはお皿）は分離できません。それと同じように、ブラフマンという不変なる実在が、常に変化している幻の世界の根底にある基層なのです。

### 「疑う者は滅びる」

現代の学生は、いくつもの疑念の犠牲になっています。なぜなら、学生のレベルまで降りてきて物事を明確に説明することのできる有能な教師が少ないからです。この講堂の後ろの壁に掲げられているスローガン、「サムシャヤートマ ヴィナーシャティ」（疑う者は滅びる）と「シャラダーヴァーン ラバテー グニャーナム」（信じる者は英知を得る）の意味を、学生たちに理解させましょう。悟りには、ニシサムシャヤム（疑いからの解放）とシュラッダー（信心／シラッダー）の両方が必要であり、それはちょうど、光が現れるにはプラスとマイナスの電流が必要なのと同じです。したがって、一方には疑念からの解放、もう一方には信心が必要であり、それらが2つの土手を形成し、それらに沿って、あなたの人生という川が流れていくべきなのです。そうすれば、最終的にその川を神の恩寵という海に合流させることができるでしょう。

女性聖者ミーラーは言いました。

「あらゆる苦難を乗り越えて、私は世俗の生活という海の深くに潜り、ついにクリシュナの御名の中にある貴重な真珠を手に入れました。もしもこの真珠を失ったなら、二度と手に入れることはできないかもしれません。ですから、おお主よ！ あなたは私の唯一の避難所なのです」

あなた方学生も、このような黄金の機会（夏期講習）は二度と得ることができないかもしれません。ですから、今、あなたの手が届く、貴重な考えといういくつかの真珠を、注意深く保管すべきなのです。そうすれば、それらは生涯を通じてあなたの役に立つことができるでしょう。

サティヤ サイ ババ述

1992年5月26日

布林ダーヴァンの大学講堂にて

Sathya Sai Speaks Vol.25 Ch18







## ババからのお手紙

### 最終目標に意を 定めなさい



私の親しき愛する者よ、

あなたと、あなたの友であるすべてのサーダカを祝福します。しっかりとした信仰心を持って、霊性修行を続けていきなさい。急いだり、あまりに早い結果を期待したりしてはなりません。ゆっくり熟すことで、果物は甘くなるのです。

あなたは主の手の中にある道具であるということを感じていなさい。しかし、あなたはジャダすなわち自動力のないものではありません。あなたには、知能、識別力、そして、この世に対する自分の執着を解く力があります。この三つは、ヴィヴェーカ、ヴィチャクシャナ、ヴァイラーギャムと呼ばれています。これらを伸ばせば伸ばすほど、あなたは良い道具になります。知能は、感官を服従させることができなければいけません。識別力は、永遠と完全に至る道を示さなければいけません。ヴァイラーギャムは、あなたをより高い目標だけに執心させなければいけません。

道を歩いていると、道の出っ張りにも、くぼみにも、その人の影ができます。道端に茨やゴミがあろうが、影が何に遭遇しようが、その人は気にしません。あなたは本体であって、影ではありません。あなたは体の中に入られている神の火花であって、体ではありません。

地面に椰子の木が生えているとします。椰子の木の影は、地面の前方に伸びています。影はこの世であり、椰子の木は実在です。椰子の木に登って、てっぺんの椰子の実に手を伸ばしなさい。そのとき、あなたの影も椰子の実の影に手を伸ばします。これはつまり、サーダナをして目標に到達しなさい、そうすることによって、あなたはこの世の幸せと平安にも到達する、ということです。

もし誰かに奉仕するため、助けるため、慰めるため、励ますために手を動かすなら、それは神のために手を動かしているのです。なぜなら、どの人の中にも神がいるからです。体は個人の魂の寺院であり、世界は全宇宙の魂の寺院です。あなたの才能のすべてを、他の人々に奉仕するために使いなさい。それはあなた自身に奉仕する一番の方法です。というのも、人々とあなたは一つのものだからです。

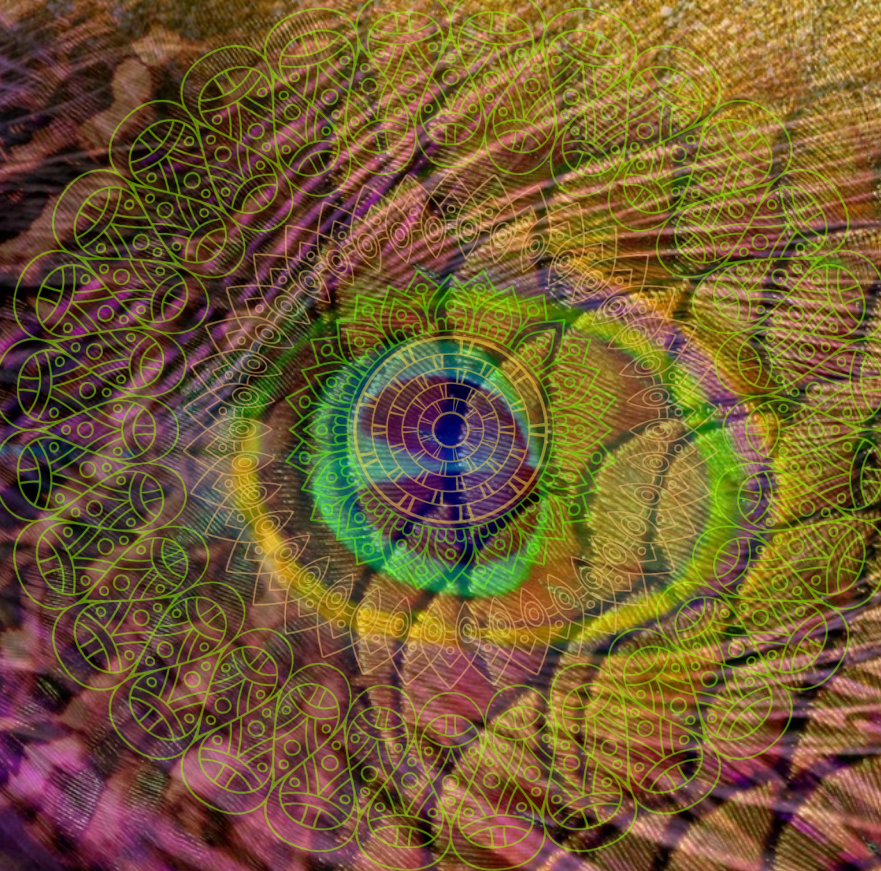
あなたのあらゆる切望が実を結ぶ時が、急速に近づいています。私はどの特定の場所にも属していません。私は全世界のために来しました。すべての人は私のものです。どこに建っていても、病院には私の祝福があります。

本に英語以外の言葉の意味と写真を添えて送ります。

祝福と共に



シュリ・サティヤ・サイ・ババ  
プラシャーンティ・ニラヤム  
1965年8月11日  
Prema Dhaara Part2 pp102-103





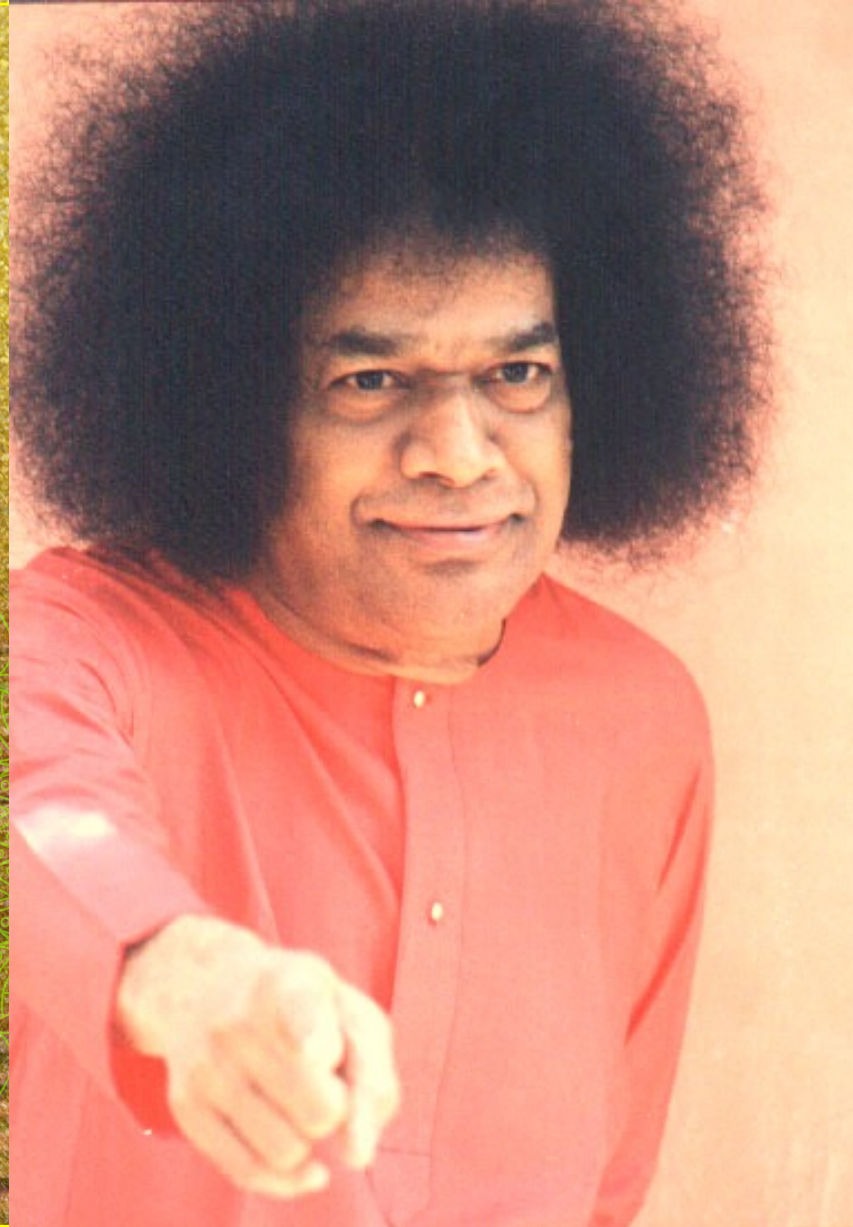


## サイの御教え

### 第一の敵

1978年

ヴェンジャヤダシャミーの  
ババの御講話



今日の世界は、恐れ、不安、あらゆる種類の恐怖症に悩まされ、病床でのた打ち回っています。しかし、それを治して健全な状態に戻す治療法がないわけではありません。世界を正すことのできる治療法とは何でしょう？人間が、自分の高尚な運命、受け継いできた貴重な財産、生まれ持った強さと美德に気づくことです。そうすれば、今日の病的な状況を引き起こしている、憎しみ、貪欲、猜疑心（さいぎしん）を取り除くことができます。兄弟愛の絆を深めることは、さまざまな実践者が提案している治療法です。しかし、それだけでは十分ではありません。平和と調和は、自分たちは兄弟だと言い合っても確保できるものではありません。私たちは、同じ母親から生まれた兄弟姉妹が互いに争い、互いを信頼し合うことがほとんどないという状況を見ています。彼らは怒りや妬みで心を汚し、人生を惨めなものにしています。子が親を敬う気持ちや、兄弟が協力し合う姿は、今の人類にはほとんど見られません。兄弟で財産の取り合いをし、時間とお金の大半を裁判に費やして、復讐心を燃やしています。

自分の強さや力に対する慢心は、結果として多くの人に傷を負わせることになりかねませんが、その慢心が一番傷つける相手は自分自身です。慢心は、人間に取り憑く（とりつく）悪魔のようなもの（祓うのが難しいもの）です。他者を破滅させ、他者を踏み台にすることを促すそのエゴをサーダナ（魂の



鍛錬)によって破壊するまでは、人は自分を人間であると主張することはできません。バガヴァッド・ギーターは、「ニル マモー、ニル アハンカーラハ」(「私のもの」や「私」のない状態)になるべしと、人に説いています。人に内在する神は、「私のもの」や「私」という闇の力が力を失ったときに、初めて現れるのです。

エゴに打ち勝つのは、ほとんど不可能な仕事です。人生のあらゆる瞬間に人間を悩ませている、6つの内なる敵について聞いたことがあるでしょう。しかし、「私」や「私のもの」という感覚は、それよりさらに根深いのです。人間は、情欲、怒り、貪欲、執着、慢心、憎しみという、6つの敵を打ち破ってきました。実際、その勝利を収めた人は大勢います。けれども、自分のエゴを破壊して、エゴの邪悪な衝動から逃れた英雄は、実に稀(まれ)なのです。

### エゴは親友を敵に回す

エゴは茨であり、それをハートに植えて育てると、人はその代償を払わなければなりません。エゴは、親しい友人を敵に回し、多くの善行や事業を台無しにします。というのも、エゴは二人の人間がいっしょに働くことを許さないからです。悲しみは、影のようにその後についてきます。エゴのないところには、喜び、平和、勇気、協力、そして、愛が花

開きます。自分を動かしているのと同じ神の意識が、他のすべての人を同じように動かしているということに認識したとき、愛はエゴを後ろへ追いやって、その人の行動と言葉と思考を司るようになります。

### エゴが起き上がると知恵は台頭できない

次の出来事を考えてみましょう。ある男が突然息子を亡くし、大きな悲しみに包まれました。そこで、隣人が男のもとへ行き、あれやこれやと論じたり、逸話を聞かせたりして慰めようとした。

「親しき友よ！なぜ人は生まれるのか？なぜ人は死ぬのか？人が生まれる理由は、人が死ぬ理由でもある。誕生は死を意味する。運命は私たちと奇妙なゲームをしているのだ。私たちは人形劇の人形にすぎない。人が死んで悲しむことに何の意味がある？」。隣人は、自分が知っているすべてのヴェーダーンタ(無執着の哲学)を遺族の耳に注ぎ込みました。けれども、遺族の悲しみは、自分でその真実に気づくまで、変わらず続きます。

数ヵ月後、その隣人が息子を亡くしました。今度は数ヵ月前にヴェーダーンタの一切を聞き入れた男が隣人のもとにやって来て、自分がされたのと同じ質問を何度も繰り返しました。男は言いました。

「人は自分のカルマ(運命付けられている行為とその結果)が残っているかぎり生き続けるものであ

償わなければならないカルマがなくなると生は短くなる。この一切は、古い借金を返済するためなのだ」。しかし、このようなことを言っても、悲しむ隣人を慰めることはできません。というのも、息子を失った当事者は隣人だからです。エゴが起き上がると知恵は台頭できません。「自分の息子」という気持ち、当事者の悲しみと、そうでない人が平気でいられる、根本的な理由です。

私たちは、自分たちのために家を建て、それが「自分たちのもの」であることを喜びます。家の壁に映画のポスターを貼られると、「自分たちの家」が汚されたと感じ、裁判までしてその犯人を懲らしめます。選挙の時期になると、人目につく不快なスローガンで壁の外観が損なわれ、「自分たちの」壁を汚したとして、あらゆる人と口論になります。しばらくすると、「自分たちの家」を誰かに売って、引っ越していきます。それ以降は、たとえその家に爆弾が落とされても、少しも胸を痛めません。長い間胸が痛んだのは、すべてエゴによるものだったのです。こうしたエゴは、どうやって入り込んでくるのでしょうか？それは、私たちの中に芽生え、私たちによって育てられ、私たちを根こそぎ破壊してしまふ雑草なのではないでしょうか？そうしたエゴは、初めはどこにあったのでしょうか？私たちが生まれる前はどこにあったのでしょうか？私たちが死んだ後は、どこにあるのでしょうか？



私たちの考えや推測はすべて、生まれてから死ぬまでの間の産物にすぎません。自分と結婚した女性が生きていくうちに重い病気にかかったときには、その女性は「自分のもの」にはなっていなかったため、心配することはありませんでした。私たちは、この種の執着を、人生の結合と安定をもたらす要素として育てています。ところが、私たちはこの執着を、魂の進歩の妨げとなるほど大きくしてしまうのです。迷妄ではなく、愛を育みなさい。自分の妻や子供を愛し、夫として、父親としての義務を果たしなさい。しかし常に真の価値を持ち続けていなさい。平衡感覚を失くしてはなりません。

#### すべての縁戚関係は基本的に身体上のものではない

例をあげましょう。細くて背の高い椰子の木が風で揺れています。その下の砂地に長い影ができていて、その影も揺れています。神は実物であり、この世はその影です。あなたは椰子の実が欲しいと思いましたが、影を木と勘違いして、細くて暗い影の線に沿って歩いて行って、椰子の実の影をつかみました。これがあなたの迷妄です。そうではなく、実物の木に登りなさい。そうすれば、椰子の実は手に入ります。そうしている時、あなたの影も、暗い影の線に沿って歩いて、椰子の実をもいでいるように見えます。ですから、愛の道、神の道を進んでいけば

あなたは両方の世界を手に入れることができるのです。愛はあなたのハートをとて大きく広げるのであなたは親類縁者に対する自分の義務から逃げだすことはできなくなるでしょう。〔しかし、〕妻、息子、母——すべての縁戚関係は、基本的に身体上のもの、体に縛られたもの、時間制限のあるものであるということを、常に忘れずにいなさい。

エゴは、次から次へと欲求や願望の波をあなたの目の前に寄せ、それを手に入れるようにとあなたを誘惑します。それは決して終わりのない輪です。ですから、あなたのエゴの輪から解放されるために、欲求を減らし、愛の範囲を広げるよう努めなさい。生きることは、多くの対立、交際や別離、闘争や無視を伴うものです。私たちは、二種類の接触——ヴィヨーガ（不快な分離）とサムヨーガ（快い結合）の両方を手放す必要があります。神に執着すれば、この世の迷妄は自動的に消え去ります。ヒランニャークシャ、ヒランニャカシプ、カムサ、ラーヴァナ、その他の者たちの場合を考えてごらんください。彼らは、幸せで平安でいるための富と力のすべてを持っていました。しかし、彼らは自分のエゴに支配され、ついには破滅に至りました。

#### 僧侶にはエゴの詰まった慢心があってはならない

エゴは、賢者、学者、教師、敬虔な求道者を、普通の人以上に攻撃します。彼らのエゴは、彼らに、自分は議論で誰にでも勝てる、自分は一番学識がある、自分は最も神に近い存在だ、と断言させます。エゴが入り込むと、その後をすぐに妬みが追いかけてきて、ハートを占領してしまいます。

宗教団体を傘下に持つグルの中には、あなたが今年のダシャラー祭にプッタパルティに行くと言うと、あなたを笑う者もいます。彼らは「ということは、あなたもサイババ狂の犠牲者になったのか？」と、あなたをからかいます。それとは反対に、彼らは、「それはよかった！ 心の安らぎを得ることができるところ、アーナンダ（神聖な至福）を得ることができるところ、神性を自覚することができる場所には喜んで行くべきだ。あなたがそのような場所を得たことを、私は嬉しく思う。神は一つであり遍在なのだから」と言って、喜ぶべきでしょう。

黄土色の袈裟（けさ）〔捨離の印〕を着ている僧侶には、エゴの詰まった慢心や妬みがあってはなりません。私は常々、神はどこにでも、誰の中にもいます、すべての名と姿は神のもので、と語っています。私はあなた方に、あなたが静かにサーダナを行える場所、神性の雰囲気を感じられる場所、愛を受けとれる場所、奉仕を通して愛を育める場所に行くよう、指示します。



アルジュナが巨大なカーンダヴァの森を灰にしたときには、エゴが頭をもたげることはありませんでした。しかし、カウラヴァ軍の前に立ったとき、エゴはアルジュナに逃げろと言いました。アルジュナはその戦いのために膨大な準備をし、長年にわたる苦行と冒険の末に特別な武器を集めていました。クリシュナは、自分がカウラヴァ軍との調停に入り、カウラヴァ軍がパーンダヴァ軍の嘆願を聞いてくれば、戦争を回避することができる、と申し出ました。アルジュナはクリシュナに異議を唱え、それは失敗するに違いないと言いました。「ジャスミンの花は、火に投げ入れられても香りを放つことができるでしょうか？ なぜ、聞く耳を持たない彼らにあなたの優しい説得の言葉を語って言葉を無駄にするのですか？ 命を奪う猛毒から命を支える甘露を得ることができるでしょうか？ あなたは彼らの中に入っていくことで嬉しいかもしれません。しかし、私は戦いに賛成です。今この瞬間も」

それほど勇敢で好戦的だったアルジュナが、突然、エゴの迷妄に襲われたのです。アルジュナは言いました。「私には、墓地を統治したいという願望はありません。自分の親族を殺すくらいなら、物乞いをして暮らすほうがましです」。するとクリシュナは、ギターの中でアルジュナにこう言いました。「ニルマモー ニルアハンカーラハ プラシャーンティム アドヒガッチャティ」——『私』や『私のもの』の

ない状態、つまり、これは『私』である、これは『私』ではない、これは『私のもの』ではない、といった性癖をなくした者だけが、プラシャーンティ（より高次の平安）に到達できるのだ」と。

サティヤ サイババ述  
プラシャーンティ ニラヤムにて  
1978年10月11日  
Sathya Sai Speaks Vol.14. Ch12







## ババからのお手紙

### パール・ヴィカスの 生徒たちへ



ブリンダーヴァンにて

愛しい子供たちよ

私の愛と祝福を受け取りなさい。あなた方の兄弟、姉妹、両親、先生方への祝福も。あなた方のクラスは「パール・ヴィカス」〔子供の開花〕という名前が付けられています。「ヴィカス」の意味は、咲く、花が咲く、というものです。花は私たちを喜ばせてくれます。なぜなら、花は美しく、よい香りがして、生きいきとしているからです。子供はみんな、それぞれがサイの庭の花です。子供の柔らかさ、無邪気さ、純真さは、人を子供に引きつけます。子供はたいへん愛に満ちているので、そのお返しに、誰もが子供を愛します。子供は利己的ではありません。子供は他の子供たちと自由に遊びます。子供はいつも本当のことを話します。子供は自分の好きなものを遊び友だちと分かち合います。その分かち合いは子供に大きな喜びを与え、他の人たちにも喜びを添えます。子供たちよ！これらの価値を育てなさい。それから、自分ができるときには、いつでも他の子供を助けなさい。そして、両親が助けを必要としているときには、両親を助けなさい。両親を幸せにしてください。両親があなたとあなたの善良さを誇りに思うような子供になりなさい。あなた方のグル〔導師〕である先生方の教えをよく学び、先生方があなた方に守るようにと助言する「すべきこと」と「してはいけないこと」を守るよう努めなさい。

あなた方は今、長い人生という旅の第一段階にいます。あなた方の前にはたくさんの大きなタスク〔課業〕があります。あなた方には、母国を幸せで豊かな国にするために果たすべき、たくさんの義務があります。今の少年少女たちは、未来のお医者さん、エンジニア、役人、農夫、商人です。この広大な国を発展させ、守り、何万という家庭に喜びをもたらしなさい。インドと世界には、莫大な物質的資源がありますが、それらの資源を人のために使うことができるよう、あなた方のハートと手は、Will〔意志〕とSkill〔技能〕を提供しなければなりません。自分の準備を整えて、その役目に備えなさい。あなた方が、人々に仕える、強く、勇敢で、私心のない召し使いへと成長するよう、私はあなた方を祝福します。サイはいつもあなた方と共にいます。サイは子供たちをととても愛しています。なぜなら、子供たちは、規律を守り、献身的で、いつも喜んで自分の義務を行うからです。

愛と祝福を込めて

ババ

Prema Dhaara II No.32





# サッティヤム シヴァム スンドラム 5

## 第54回

バガヴァン・ババの60歳の御降誕祭の後、そのすばらしい祝典の陣頭指揮を執って働いていた者がこう述べました。

「このように大規模で、また、三年という時を費やして企画された御降誕祭は、世界中、他のどこにも見当たりません。大切なのは、すべての活動が、その大小にかかわらず、サイ・オーガニゼーションによって行われたということです。社会の福祉と幸福を促進するための新しい活動への種子、拡大し続ける神性への信念を支えるための種子が蒔かれました。ババの60歳の御降誕祭をお祝いする際に生まれた情熱は、祝典が終わったからといって消えてしまうものではなく、それどころか、本当の仕事はたった今始まったばかりだというのが、アクティブ・ワーカーたちの心情です。

この体験から生じた注目すべき教訓は、このような祝典の成功、あるいは成果の本当の指標は、催し

物や行われたプログラムの数で計られるべきものではなく、人々の福祉、健康や幸福への貢献の度合い、また、奉仕を捧げたすべての活動における神への愛、信仰の深さという観点から計られるべきです」

1985年11月14日にプラシャーンティ・ニラヤムで始まった10日間の御降誕祭は、それまでの3年間に世界中のサティヤ・サイ・オーガニゼーションで行われていた祭事の頂点を極めるものでした。それは光と喜びの比類なき祭典でした。その10日間にプラシャーンティ・ニラヤムで起こったことは、驚くほどすばらしい奇跡でした。最終日の23日には、少なくとも40万もの人がいました。その全員が、10日の間、日に4度の食事を完全に無料で与えられました。祝典の間に出された食事の数は合計で800万食以上におよびました！ さまざまな種類の菜食の料理が作られ、さまざまな国からやって来た人に振る舞われました。巨大な厨房や配膳用の会場で働いたボランティアの数は、男女合わせて2000人を超えていました。集まった大勢の人々のため、祭典を喜びに満ちたものにするために、少なくとも1万人のボランティアが夜を徹して働きました。

その祝典での活動の幅と質は驚くべきものでした。14日から16日まで、シュリ・サティヤ・サイ行政区の村々に医療キャンプが設営されました。そこではインドのあらゆる地域、そして海外の数か国から

やって来た数百人の医師が、健康を必要とする何千人という村人たちのために働きました。医療キャンプのうちの10のセンターは、プラシャーンティ・ニラヤムで10日間昼夜問わず開いていました。26日にはナーラーヤナ・セヴァがあり、スタジアムに集まった1万人の貧しい村人に食事が出され、衣服が提供されました。バガヴァンご自身がその幾人かに食事を給仕なさり、衣服を与えて、その奉仕活動を開始なさいました。16日には、60の小屋からなるカラナム・スッバンマ・ナガルと名付けられた居住区がバガヴァン・ババによって開設されました。それは、ババが神であることをプッタパルティ村で最初に悟った信心深い女性を記念したものでした。その居住区の家屋は、それを必要とする、あるいは、それにふさわしい家族に寄贈されました。17日の朝には、マンディルで100人を超えるルットウィック（ヴェーダを唱える僧侶）によるヴェーダの詠唱が始まりました。詠唱は祝典の最後まで続けられました。

バガヴァンは90冊以上もの出版物の封を切られました。それらは、プールナチャンドラ講堂での第四回世界大会の開会式において、ババの60歳の御降誕祭の奉納物として17日の朝、出版されたものです。世界大会の代表者たちは、バガヴァン・ババの大歓迎会を19日の午後スタジアムで行う計画を立てていました。20年から30年という長年にわたって



バガヴァンと行動を共にしてきた帰依者が何人か選ばれ、バガヴァンに祝辞を述べることになりました。その中には、インドのR・P・ラヤニンガル氏、G・K・ダモーダル・ラーオ氏、カマラ・サーラティ女史、A・ムケールジー女史、M・M・ピンゲー氏、シンガポールのウィー・リン氏、日本の津山千鶴子女史、アメリカ合衆国のロバート・ボッザーニ氏、マレーシアのジャガディーサン氏がいました。それと同時に、80歳代の5人の帰依者、N・カストゥーリ博士、N・S・クリシュナツパ氏、B・シーターラーマイア博士、T・クリシュナンマ女史、コーナンマ女史という、多方面にわたってバガヴァンに仕えてきた人たちも、記念品の荣誉にあずかりました。翌朝、各国からの観衆は、唯一無二のゴードーン（牛の贈り物）プログラムをスタジアムで目にしました。彼らの主であるサイ・ゴーパーラが60頭の乳牛と、その牛たちから最初に生まれた子牛を60人の幸運な村人たちに直々にお贈りになったのです。

11月22日、シュリ・サティヤ・サイ高等教育機関は、インドで唯一、教育的な目的として近代的なスペースシアターすなわちプラネタリウムを備える大学、という無類の名声を手にしました。その独特な外観をしたスペースシアターは、ババ自らの絶え間ない直接的な指揮の下、記録的な速さで建てられ、その日の朝にオープンしました。午後には、巨大な

サティヤ・サイ・ヒル・ビュー・スタジアムで、40万人以上が見守る中、大学の第四回学位授与式が行われました。

どの高等教育機関の年代史にも、これほど大勢の熱烈な参列者の前で、絵のように美しい場で執り行われた授与式はありません。高名な科学者であった、E・C・G・スダルシャン博士が卒業式のスピーチをし、バガヴァンがお祝いのメッセージを述べて、その巨大なコンコースを祝福なさいました。

ヒル・ビュー・スタジアムの「シャーンティ・ヴェーディカ」〔平安の座〕というぴったりの名前を付けられた壮大なステージは、バガヴァンがダルシャンを与え、記念すべき御講話を述べられる演壇としての役割を果たしただけでなく、17日から24日までの8日間におよぶ文化祭のためのステージとしての役割も果たしました。文化プログラムでは、インドの国立団体によって準備された一連の絶妙な民族舞踊やダンス、有名な音楽家たちによるコンサート、それから、バガヴァンの学生たちによる三つの劇が上演されました。11月20日には、アナンタプル大学の女学生たちが、「イーシュワラ サルヴァブターナム」〔主はすべての生類に宿っている〕という劇を上演しました。21日と22日には、プラシャーンティ・ニラヤム・キャンパスの男子学生たちによって、テルグ語の劇「ラーダー クリシュナ」

と、英語の劇「こちらとあちら」が演じられました。どちらもバガヴァン御自身の監督によるものでした。前月の間中ずっと、ババはこの二つのお芝居の稽古に非常な関心を持っておられ、学生たちに楽曲の演出、対話の仕方、そして、それぞれの役の演技方まで教えてくださっていました！

23日の午後には、見事に飾り付けられたジュラー（ブランコ）に乗られるバガヴァン、という喜ばしい光景をながめて、帰依者の大集団が自らの目を楽しませている中、プラシャーンティ・ニラヤム・キャンパスの上級生が、この時のために特別にこしらえたテルグ語とヒンディー語と英語の歌を、心を込めて歌いました。





プラシャーンティ・ニラヤムのプラネタリウムの礎石を据えるババ。プラネタリウムはそれから一年もかからずに誕生した。



無類の建築



色彩豊かな文化プログラム



色彩豊かな文化プログラム



# サッティヤム シヴァム スンダラム 5

## 第55回

23日、朝日が昇ると、ヒル・ビュー・スタジアムは、四方八方から人が流れ込んでいく、人の海のように見えました。至る所に人がいて、誰もがその輝かしい朝にアヴァターを一目見ようと固唾を呑んで待っていましたが、太陽は雲に覆われていて、雲の背後に身を隠し、式典が終わるまでずっと一度も姿を現すことはありませんでした。その涼しくて心地よい天候が、プラシャーンティ・ニラヤムに集まった50万人の帰依者たちの内なる喜びに期待を添えました。そうした幸運な人々の何人かにその朝のことを聞いてみることにしましょう。

マンディールからスタジアムへと続く行進の列では、バガヴァンの学校から来た約60名の男子学生が、バガヴァンのチャリオット（二輪馬車）の前に行くバンガラとナーガの踊り手として参加するという特権を与えられました。彼らの喜びに満ちた体験は次のようなものでした。

「私たちは朝5時にマンディールへ行って、衣装を着け、化粧をしました。行進は7時半に始まることになっていました。バガヴァンがインタビュールー

ムから午前6時45分に出てこられたときには、私たちはバジャン・ホールにいました。私たちはスワミがホールに入ってこられるのを見てわくわくしました。おそらく私たちは、その極めて大きな意義のある日にスワミのダルシャンを受けられる最初の者たちだったと思います。スワミは私たち全員をじっと見つめて、喜んでおられるようでした。スワミは、何人かの男子生徒たちの頭飾りを、もっとよく見えるように直してくださいました。そして私たちに、『少年たち、朝食は食べましたか？』とお尋ねになりました。

私たちはまだ朝食をとっていなかったのですが、本当のことを言ったらスワミは悲しむと分かっていたので黙っていました。

ババは微笑んで言いました。

『分かっています、分かっていますよ！ 君たちはまだ何も食べていませんね。それでどうやってダンスを踊って、式典の最後まで体をもたせるつもりですか？ 終わるのはだいぶ遅い時間になるでしょう。心配いりません。私が君たちに朝食を用意しましょう』

スワミはボランティアを数人呼ぶと、朝食を持って来るようにおっしゃいました。私たちは母親のようなスワミの気づかいにとっても感激し、涙を流す者もいました。それが、スワミの60歳の御降誕祭で、スワミが最初になされたことでした。朝食が出されると、すぐにスワミはホールを出て行かれました。私たちが行進でスワミのチャリオットの前で踊ることができたのは、大いなる幸運でした。行進を終えた後に疲れを感じた学生は一人もいませんでした。反対に、終わってしまったことが悲しく思えたくらいでした！」

マイソール出身のナーマギリアンマ夫人はバガヴァンの古くからの帰依者でした。彼女はプッタパルティの「旧マンディール」に何年も住んでいました。バガヴァンの60歳の御降誕祭が終わった後、彼女はこのように言いました。

「1950年以前の『旧マンディール』時代には、スワミは私たちだけのものでした。スワミはいつも私たちと共に過ごしていました。時には、ただ楽しく、はしゃいでいただけのこともありました。そんなある日のこと、スワミがサカンマ夫人と私におっしゃいました。

『私の60歳の誕生日には、何十万という帰依者たちがこの村にいることでしょう。そのころには、私は自分の大学を持っており、白馬に牽かれた黄金のチャリオットに乗って行進をしているでしょう！』

そのとき、スワミはとても真剣なご様子でした。

当時、スワミの周りには100人もいないくらいでした。私たちは二人ともスワミは冗談を言っておられるのだと思い、笑い出さずにはいらませんでした。

スワミは私たちに真面目な口調でおっしゃいました。

『私の言うことを信じていないようだね！ サカンマはそれを見るころにはいないでしょう』

それから、私のほうを向いておっしゃいました。

『でも、あなたは見ることになります！ ですが、その時には、これほど私の近くにいることはないでしょう！』

スワミがそうおっしゃったのは40年も前のことですが、今日、それが実現したのだと言わざるを得ません！ 23日の朝、私はスワミを一目見ようと、巨大



な群衆の中、ガネーシャゲートの外の道路際に立っていました。遠くからスワミのチャリオットが見えたとき、あの予言めいた言葉が思い出されて涙が出ました。スワミは私を見過ごすことなく、チャリオットが私のそばを通り過ぎる時、意味ありげに微笑んでおられました。スワミは私に『ごらん、あの時あなたは私の言ったことを信じていなかったね!』とおっしゃっているような気がしました。今日、生きてスワミの栄光を見ることができ本当にうれしい限りです!」

ナイポール・スクデオ氏は、トリニダード・トバゴ共和国から世界大会の代表として、1985年の11月に初めてプラシャーンティ・ニラヤムへやって来ました。もちろん、彼は長年の間バガヴァンの帰依者でしたし、自国でたくさんのリーダーを目にしました。彼は23日にスタジアムで見たことを語ってくれました。

「バガヴァンは黄金のチャリオットに乗ってスタジアムに現れました。クルクシェートラの戦場でシュリ・クリシュナによって操られたのと同じ、その昔ながらの形を模したチャリオットは、立派な四頭の白馬に牽かれていました。チャリオットは、ナーダスワラム隊、学生たちの楽団、華麗な衣装を着けた踊り手たちに続いて、壮大な行列の中を進んで来ました。チャリオットが私たちのそばを通り過ぎるとき、私は思わず、『これこそ、カリ・ユガのアヴァターだ!』と声を上げていました。私たちははっきりと、甘く微笑むババの顔を見ることができました。ババの黄金色のお顔は、冠のような黒いカーリーヘアと、百合のように白い歯とのコントラ

ストで、純然たる光輝を発していました。ババの両手は高く掲げられて振られ、巨大な群衆を祝福していました。

私は自分の目で神を見ていました! ババは私のラーマであり、クリシュナであり、シヴァ、ドゥルガー、イエス、アラー、私のすべてでした! スワミが美しい装飾を施されたシャーンティ・ヴェーディカの演壇に上がられると、何十万という帰依者たちが『バガヴァン・シュリ・サティヤ・サイ・ババジ・キ・ジェイ!』と、誕生日を祝って叫びました。その勝利と称賛の声は大空を震わせたかと思われました。急に雲が分厚くなり、空を覆い始めたのです。私たちの多くが、サイクロンに関する天気予報を思い出しました。それはアードラ・プラデーシュ州の沿岸を横断するという予報で、この地域に大雨をもたらすというものでした。ですが、神様がおられるというのに何を恐れることがありましようか? 小雨さえ降りませんでした。それどころか、雲は太陽を遮ってくれる喜ばしい覆いとなったのです!

バガヴァンは、その御降誕祭の御講話で、サイクロンの不思議な消滅についても言及しました。バガヴァンは次のように明かされました。

『まさに祭典が始まろうとしていたとき、カストゥーリがラジオで聞いたことを私に何度も言ってきました。サイクロンが沿岸地域を横断しようとしており、ネッローレやオンゴールにやって来ること、そして、ラヤラシーマ地方にも大雨を降らせる、と。ですが、そうはなりません。どうしてもこの日この場所にいたいという人々の信愛が、サイクロンを追い払う楯となったのです。もしサイクロンが来ていたら、帰依者たちは大変な目に合っていたこ

とでしょう。彼らの帰依心が私の心の琴線に触れ、私は決して彼らが不都合な目に合うことはないと思志しました。私はバターのように柔らかいハートを持っていますが、バターを溶かすにはバターを温める必要があります。あなた方の帰依心がその温かさでした。サイクロンはいったいどこへ行ってしまったのか、まだ誰も発表していません! いったい誰がこのような奇跡を予測することができたでしょうか?』

言うまでもなく、明らかにされたこの事実は、とどろきのような歓声で迎えられました。『サイ・サンカルパ』(サイの意志)の驚くべき力を明かし、いつ何時も帰依者たちを完全に守ることを保証してください。くださった御降誕祭のメッセージは、私たちの存在をより高く、至福に満ちたレベルへと高めてくれました。

仲間の帰依者や代表たちと一緒に座っていたとき、私は、カリ・アヴァターラ(カリユガの時代の神の化身)としてのサイの降臨の60回目の祝典にその御足のもとにいるなんて、私たちはなんと幸運なのだろう! と驚異の念を抱かずにはいられませんでした」

御降誕祭での画期的な御講話は90分に及び、バガヴァンは人と神との間にある必要不可欠な関係について説き、帰依者たちの多くの疑念を晴らしてくださいました。人類への限りない愛を込めて、バガヴァンははっきりと、いかに「サイ・サンカルパ」がこの世のために働いているのかということ明らかにし、また、無私の愛、普遍的な愛という最高の宝を有しているがゆえに、バガヴァンはこの世で最



も裕福な者であることを明言なさいました。バガヴァンの歴史的な御講話の中からいくつか抜粋してみましよう。

「神こそが唯一、人の生命を――その基盤、その構造、その完成を――維持している者です。お金は、人が神聖さを育てて源である神に融合するのを助けることはできません。学識も同様に無力です。人にできる唯一の方法は、切なる思いや必死な努力を神へと向けることによって、探究心を深めることです。切なる思いが研ぎ澄まされればされるほど、深くなればなるほど、それは人が感覚の領域や、理性の脆弱な力を超え、星々や宇宙空間を超えて、限りない至福の大海へと深く潜る助けとなります。反対に、もし、切なる思いがこの世の欲望や気を散らすものへと向かっていくなら、それは人を奈落の底へと突き落とすでしょう。この運命から逃れる一番の方法は、善良な人々や神聖な人々の仲間の中へ避難して、彼らと共に旅路を歩むことです」

「人は自分を維持してくれている神なしには存在できません。神もまた、自らの存在を知らしめるために人を必要とします。『ナラ』という言葉は『ナーラーヤナ』の概念を伝えています。人はサーダナの強度によって神を自分のイメージどおりに創造し、神はそうなるようにと意志することで自分のイメージどおりに人を創造します。たいいてい人は、知性や想像力が乏しいために、主なる神を心に描くことができません。エゴは、サーダナを妨げ、知性を悪用することによって、頑固さや無知を助長します」

「人は皆、対立する者、すなわち敵と対峙しなければならないのが、この世の習わしです。全世界に一人の敵すら見いだすことができないのは、サイだけです。中には、自分勝手な空想をして私が彼らのことを嫌っていると思う人たちもいます。ですが、私に言わせるなら、私が愛していない人は一人もいません。私にはすべての者が愛おしいのです。今、この世で私ほどの富や財産や宝を持っている人は他にいません。世界銀行でさえ、最も裕福な王でさえも、です。その富や財産や宝とは何でしょう？ それは、私の普遍的な無私の愛です。私の全くの私心のなさ、奉仕して救いたいという熱意に満ちた私の慈悲深いハート、平和と繁栄を築き上げようという私の決意、世界に至福の雨を降らせようという私の決心――これらは日を増すごとにどんどん形となって現れつつあり、私はいつも計り知れない至福で満たされています。私は一瞬でさえ不安がよぎることはありません。これらを考えてみるなら、こうした声明をすることができる人が、誰かこの世にいますか？」

「私が一つのプロジェクトを決めると、資金集めの運動など何もしなくとも、それを成し遂げるために必要な資金はすぐに手に入ります。私の意志には、私の計画を具体化する力があるのです。私はプッタパルティにカレッジができるよう意志しました。すると、ナワナガルのラージャマータ（藩王女）がそれを建てました。しつけの行き届いた学生のいるカレッジを提供するために、私はハイヤー・セコンダリー・スクール（中・高等学校）を設立することを意志しました。すると、アメリカのボッザーニがそれを建てる機会をくださいと懇願してきました。

バンガロールで、私がカレッジと学生寮の計画について意志した時には、エルシー・コーワン夫人がそれを完成させる榮譽を与えてほしいと頼んできました。これが、私のサンカルパ（意志）の力です」

「あなた方の規律ある信愛、あなた方の愛、あなた方の不屈の精神は、手本とすべきものです。ここで私が身内を称賛するのは適切なことではありません。西洋人たちは、多くの不快な思いや不便をもともせず、大勢でやって来ました。それは彼ら一人ひとりにとって、本当のタパス（苦行）です。あなた方は、自分たちをダルマとカルマの英雄的なメッセンジャーへと変えるために、あなた方の毎日と、行いと、知性と、技能を捧げなければなりません」

「私はあなた方に一つ望みがあります。すべての人に対して兄弟感覚を持ちなさい。常に正しい行いを選びなさい。自己中心的な行いをやめなさい。貧しい人たちや虐げられた人のために働くどんな機会も歓迎しなさい」

「60回目の誕生日の祝祭の一環として、私はあなた方にあるテストを処方します。あなた方はそれを受け入れなければなりません。農夫は、畑を耕し、種を蒔き、その作物の成長を穀物が収穫されるまで見守ります。次のプロセスは、それをふるいにかけることです。その時、もみ殻は風に飛ばされ、しっかりとした実だけが残ります。私は今から、ふるいにかけます。このテストで、もみ殻は取り除かれるでしょう」

「もう一つ明らかにしたいことがあります。ある



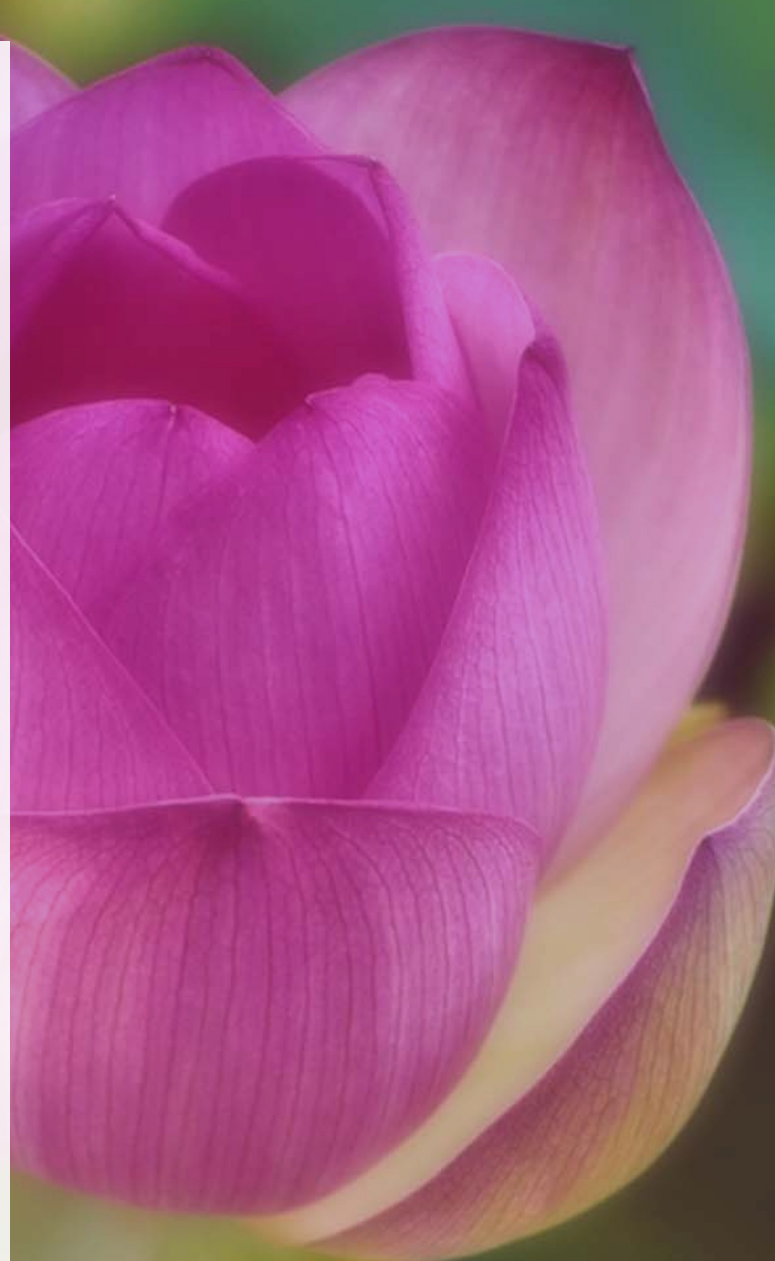
疑念が広まっていて、それが人々の心に混乱を招いています。それは、60歳の誕生日の後、スワミは一般の人々から遠い存在になる、スワミに変化が生じる、という懸念です。私の天性は変化するようなものではありません。私は決して帰依者たちから自分を遠ざけるようなことはしません。今後、私はより一層、帰依者たちにとって手の届く存在となるでしょう。サティヤ・サイは、サティヤ——真実（真理）です。どうやってサティヤが変わることなどできるのでしょうか？」

「サティヤ・サイ・プラブ（主であるサティヤ・サイ）とサティヤ・サイ・セーヴァカ（サティヤ・サイの奉仕者）は、愛と忠誠心によって固く結ばれています。サイはあなた方のために存在しており、あなた方はサイのために存在しているのです。私たちはお互い離れることはできないのです！」

私たちは神が私たちの間で行動しておられる時代に生きている、ということを私たちが忘れることがありませんように！ 二千年前にこの地上を歩いておられた救世主について、ハリール・ジブラーン（レバノンの詩人）が次のように書いています。

「私たちは流れゆく川と共に流れ去り、名もなき者となるでしょう。流れの途中で主を磔にした者たちは、神の流れの途中で主を磔にした者として記憶に留められるでしょう！」

私たちは流れの途中で主を磔にした者として人々の記憶に残らないようにしましょう。私たちにとって、そして、後世の人々にとって、この世界をより良い場所にするために、主と手を取り合いましょう。





シュリ サティヤ サイ ババ様 御生誕100周年記念ヴィジョン



ハートの中におられる神様を絶え間なく憶念し  
人類同胞愛という一体性の花を捧げます





## 人生は挑戦 それに立ち向かいなさい

- ババ

SSSIOJ会長 住友正幹

人がこの世に生まれてきたのは、良い学校に入り、良い会社に勤め、良い給料をもらって良い人に巡り合い、良い家庭を築くためではありません。

それらは生活を豊かにしてくれますが、人生のゴールではありません。また、人間の愛は心を満たし、生きる喜びも与えてくれますが、それらもまた、人生のゴールではないでしょう。私たちが何度も地上に生まれ変わっているのはなぜでしょうか？それは、真のゴールに未だ至っていないからではないでしょうか？

真のゴールとは何でしょうか？それは、内なるマハーバーラタすなわち、自我と真我の戦いに勝利することでしょう。真我が実現されれば、真の愛、真の幸福、真の平安が実現されます。

それに対して、自我が生み出す人間的な愛や

幸福は、二つの悲しみの合間にある一時的な喜びにすぎないとスワミは言われています。しかし、多くの人はそのことを理解していません。そして、外側に喜びを求めつづけ、日々生じる様々な問題に心を奪われ、貴重な時間を浪費しています。

この世に生を受けたすべての人は、内なるマハーバーラタを戦う戦士です。戦士は遅かれ早かれ、人生の真のゴールに挑むことが定めなのではないでしょうか？

それは宝石に例えれば、永遠の輝きのある最高のダイヤモンドを手に入れることであり、それを手に入れさえすれば、もう他の宝石への関心は薄れ、心が動くことはありません。そのように、真の愛、真の幸福、真の平安をもたらす真我の実現は、人生における最も価値のある挑戦なのだと思います。

しかし、真我の実現という究極のゴールは私たちが自らの力だけで獲得できるものでしょうか？ 残念ながらそうではないでしょう。なぜならそれらは獲得するものではなく、もたらされるものだからです。自我の力で無我の境地に至ることは叶わないでしょう。

私たちにできることは自我を放棄する努力をし続けることです。それは簡単なことではありませんが、そのための最も確実な方法は、自分の思いを放棄し、与えられた運命に従い、他者や社会のために自分の役割を果たすということでしょう。自我の放棄とは

すなわち、神の道具として生きることであり、献身の道を歩むことだと言えます。

自分に与えられた運命に従い、人のために尽くす挑戦をした素晴らしい事例があります。

デニ・ムクウェゲというノーベル平和賞を受賞したコンゴの医師がいます。筆舌に尽くしがたい性暴力を受けた女性たち3万人もの治療にあたった医師です。テレビで放映された映像は見るに忍びなく、人はここまで残忍になれるのかと衝撃を受けました。

この状況の中でムクウェゲは、自宅を襲撃され殺されそうになります。亡命せざるを得なくなりましたが、その間に病院は荒廃に瀕しました。帰国することになったのは、パイナップルや玉ねぎを売った代金を寄付して飛行機代を集めた、貧しい患者の女性たちの願いに応えるためでした。

ムクウェゲが医師になったのは、牧師である父に連れられて貧しい病人の家に訪問したとき「なぜ治療してあげないの？」と父に聞いたのですが、「私は医者ではないから」という父の言葉に「それなら自分が医者になって、この人たちを助ける」と言ったのが始まりでした。

もしコンゴという国に生まれていなければムクウェゲの人生は違ったものになっていたでしょう。もし、牧師の父と一緒に病人の家に訪問していなけ





れば、彼は医師にはなっていなかったでしょう。すべてがなるべくしてなり、起こるべくして起こっていることを考えれば、ムクウェゲの人生はムクウェゲでなければ引き受けることのできない運命からの促しであり、命をかけた挑戦だったと言えます。

また、世界的に有名な小説の中には、果敢に自分の運命に挑戦した感動的な物語がたくさんあり、私たちを啓発してくれます。

ビクトルユーゴー原作の『レ・ミゼラブル』は、フランス革命の時代を背景にした、愛と赦しをテーマにした名作です。たったパン1個を妹の為に盗んだために、19年間もの牢獄生活を強いられたジャン・バルジャンが、仮釈放の途中で逃亡し、身分を隠し市長にまで上り詰めたものの、警部ジャベールに執拗に追いかけられながらも彼を赦し、娘として引き取ったコゼットに神の愛を見出しながら神に召されていくというあらすじです。

ジャン・バルジャンはもしパンを盗まなければ、牢獄に19年も入れられることはありませんでした。しかし、どうしても貧困のために止むを得ず盗んでしまったのです。それはジャンのつまずきでしたが、その小さなつまずきから始まる波乱万丈なストーリーを通して、愛と赦しに挑戦した人生だったと言えます。

振返って私たちの人生を考えれば、誰もが同じように生まれながらの定めに出会い、あるいは出来事に直面し、それが人生の岐路になっているのではないでしょうか？その時、どうしたか、人それぞれに人生のストーリーがあります。

ヴェーダの深遠な英知を明らかにしたバガヴァッドギーターにも、自らの運命に挑戦したアルジュナの姿が描かれているのは皆さまよくご存じの通りです。

アルジュナは、クリシュナに諭されるまでは、親族と戦うのをためらい優柔不断なまま身動きが取れない状態まで追い詰められたのでした。しかし、最後には自分に与えられたダルマを果たすべく、自分の運命に果敢に挑戦しました。

すべてに共通しているのは、自分が直面することになった運命に対する挑戦であり、決して他者との競争ではありません。それは自分に対する挑戦であり、自分を高める千載一遇のチャンスです。

スワミは次のように説かれています。

#### サイババ様の御言葉

人類の歴史においては、何回もアヴァター（神の化身）がやってきて、人を目覚めさせました。しかし、動物的な過去と悪魔的な迷妄が人を泥沼の中

に引きずり込みます。そこで人は愚かにも、官能的で肉体的で一時的なつまらない物事に興じているのです。今生は、あなたの人間としての存在価値を高める素晴らしいチャンスなのです。親族や富や世俗的名声から得ようとするアーナンダ（至福）は、神が宿るハートという泉に棲むアーナンダの薄い影にすぎません。その泉とつながろうと試みなさい。その源泉そのものに向かいなさい。真のアーナンダもしくは内なる神に集中しなさい。真のアーナンダを求める人はほとんどいません。多くの人は、感覚、知性、マインドから成る似非（えせ）アーナンダに夢中になっています。真のアーナンダが湧き出すのは、真理からだけです。そして、各自が自分自身に対して負っているダルマ（義務）が真理なのです。真理を求め、真理に奉仕し、真理になりなさい。ハートが愛で満たされたとき、真理が自ずと明らかになるでしょう。

—1970年7月の御講話より

人は生まれながらに、他者の役に立ちたいという本能をもっているようです。体内記憶をもっている子供たちは、例外なく父や母の役に立ちたかったと証言するのを見ても明らかです。

その意味では、人や社会に尽くすことは魂の願いでもあると言えるでしょう。自分の思いを空にして、与えられた役割を果たし、運命を成就することは確かな幸せにもつながるでしょう。





### サイババ様の御言葉

「英語のハッピーに相当するテルグ語の言葉は、『サントーシャム』です。『サントーシャム』という言葉の意味を調べてみましょう。『トーシャム』は『プラサントナ』（喜び）を意味します。接頭辞の『サン』は、『放棄』と『犠牲』によって、正しく高潔な手段によって勝ち取った喜びを意味します。人は欲望を手放さなければなりません。欲望は、悲しみをもたらし、奴隷にし、拘束します」  
—1983年11月23日の御講話より

つまり、真の喜びは、欲望の放棄や神への献身の中に見出されるのであり、決して自己を満たす行為の中にはないのです。

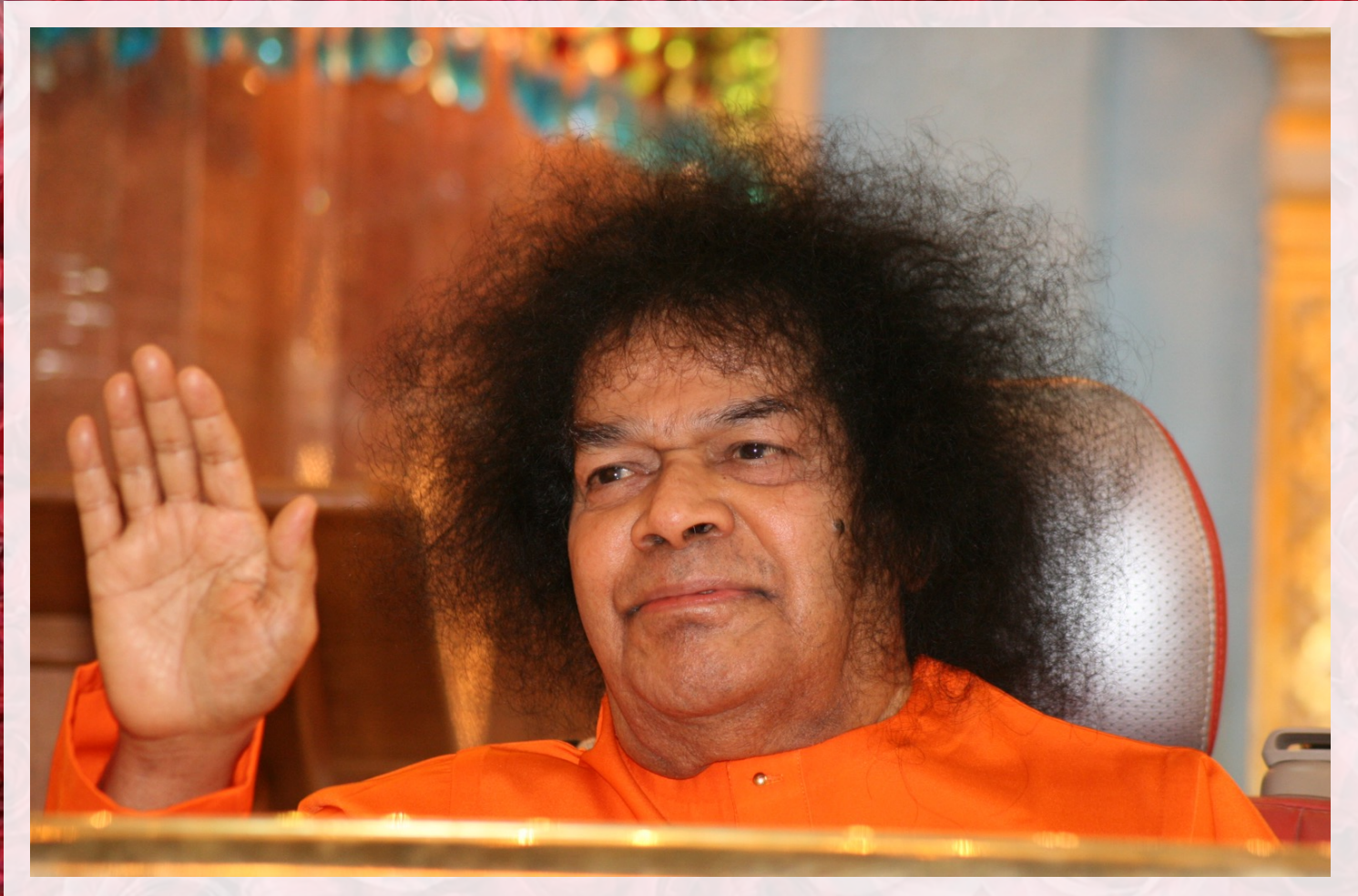
「人間は長い間、鉱物として生まれ、次に樹木となり、進化の過程で動物へ昇格し、最終的に人間としての地位にまで登ることが出来ました。人として生まれることは限りない幸運であり、人間だけが自らの実在に気づいて、神の状態に到達することができる」そうスワミは説かれています。ですので、私たちは、この貴重な人生を無駄にすることなく、千載一遇のチャンスに果敢に挑戦することが求められています。

「人生は挑戦、それに立ち向かいなさい」

「人生は愛、それを分かち合いなさい」

「人生は夢、それに気づきなさい」

「人生はゲーム、それをプレイしなさい」







## 人生はゲーム それをプレイしなさい

— ババ

SSSIOJ会長 住友正幹

スワミはおっしゃいます。

「生まれる前には、人は世の中やその物質的な対象とはいっさい何の関わりもありません。死後、それらや、すべての親戚縁者は消滅します。今の逗留は、ただ誕生と死の合間にプレイされるゲームにすぎません。」

— 『人生はゲーム、プレイしなさい』 p. 25  
My Baba and Iより

なんと簡潔な言葉で、私たちの人生の意味を説明して下さっているのでしょうか。私たちの人生が、どのような人生であったとしても、それはゲームにすぎないという御言葉は、人生に悩む人にとっては大きな救いになります。また今、人生を謳歌している人にもそれらは永遠のものではないという戒めにもなるでしょう。

私たちは、人生が終われば観る者だけが存在していたことに気づき、観る者は人生が始まる前も、肉体を持ってこの世を生きていた時も、そして終わった後も何も変わらずに存在し続けていることに気づ

くことになるのでしょうか。

人生は、自分が主人公の短編のドラマです。誰の人生にも、喜びや悲しみ、楽しみや苦しみ、出会いと別れ、獲得と喪失などがあります。このような相対的な概念が生まれるのは、二元的な意識であるアハムカーラ（肉体としての私）が原因でしょう。それは自他が存在しているという迷妄を生み出し、私の喜びや悲しみ、私の楽しみや苦しみ、私の得や損という概念を生み出します。

しかし、それらは心が創り出した実態のない空想にすぎず、真実のものではありません。例えば、生老病死という事実はあったとしてもそれを「苦しみ」だと感じるのは肉体と自己との同一視から生じる感覚にすぎません。人間のあらゆる苦しみの根源はこの同一視にあり、自分がアートマという永遠の存在であることを忘れたため、あるいは自覚できないために生じます。

自分が乗っている自動車が動かなくなっても苦しみを感じることはありません。同様に肉体もアートマの乗り物に過ぎませんので、本来苦しむべきものではありません。ニュースで誰かの死を知っても心は動きません。そうではないのでしょうか？それが知人になり家族になり、自分に近くなればなるほど悲しみや苦しみが増し、いよいよ自分自身になれば「人生一大事」になります。それを生み出しているのは、私は肉体であるという迷妄でしょう。

ある霊性修行者がいよいよ自分の死に直面したことがありました。それまでは、いずれ誰でも死ぬのだからと呑気に構えていたようですが、いよいよそれが自分の身に及んだとき、日常の感覚は吹っ飛んだそうです。やっと平静に戻れたのは「アハム ブラフマースミ（我は神なり）」というマントラでした。

カリユガという暗黒の時代も、私たち人間が、「人は神の顕れである」という真実から離れ、肉体と自己を同一視した結果生み出した混乱です。現在、世界で生じている戦争や犯罪も「人間とは肉体に過ぎない」という誤った思い込みが原因です。この無知が、領土を奪い合い、資源を奪い合い、マネーを奪い合わせています。無知が克服されない限り、これらが無くなることはありません。奪い合いから分かち合いになるためには「人はどのような存在なのか」という真実に目覚めなければなりません。

では、私たちはこの混乱の世界で、人生ゲームをどのようにプレイすれば良いのでしょうか？それには次のスワミの「4つのF」の御言葉が役立ちます。

1. Follow the Master（主人に従いなさい）
2. Face the Devil（悪魔に直面しなさい）
3. Fight till the End（最後まで戦い抜きなさい）
4. Finish the Game（ゲームを終わらせなさい）

### 1. Follow the Master（主人に従いなさい）

主人に従うとは、サイの帰依者からはサイババとして知られ、キリスト教の求道者からはエホヴァと





して知られ、仏教徒からはブッダとして知られ、イスラム教徒からはアッラーとして知られている神なる存在に従うことでしょう。

すべての神の化身の教えは愛ですので、愛に従うという表現もできます。もちろん、その愛は人間としての執着の愛ではなく神の愛に従うという意味です。

またそれは、不二一元の見方からは私たちの真我であるアートマに従うことを意味します。私たちが神から生じたものである限り、海水の一滴が海の成分そのものであるように、私たちは神そのものです。ですので、すべての答えは自分の中にあります。アートマに従うことは神に従うことを意味します。自分と神を別々の存在として見るのは、二元論でありスワミの御教えではありません。

また、良心はアートマの反映といわれていますので、良心に従うという表現がより具体的で分かりやすいかもしれません。私たちは、良心に反する行為をした場合、良心の呵責を感じるようになっていきます。誰かを傷つけたり、生命を殺めたりすると苦しくなるのはそのためでしょう。

つまり主人に従うとは、神の化身（御教え）に従うこと、神の愛に従うこと、アートマに従うこと、良心に従うことであると言えます。

## 2. Face the Devil (悪魔に直面しなさい)

悪魔とは、自分の外側に存在するものではなく、私たちの心の中にあります。それは、心の中の六つ

の敵と呼ばれるもの、すなわち、欲望、怒り、貪欲、迷妄、高慢、嫉妬を指しています。

これらの敵は、誰の心にも潜んでいます。内省する習慣がなければ、それらに気づくことはありません。そして大切なことはなぜ、そのような思いが生じるのかという理由を探求することでしょう。心から平安が失われ、ざわついた思いが感じられた時、「なぜだろう？」と自分に問いかけると、そこには必ず、心の中の六つの敵の何かが潜んでいるはずです。

心に不満や苦しさがある場合、それは何らかの欲望があるサインでしょう。それが正当な欲求なのか、過剰な欲望なのかは良心に問えば分かるはずですが、人間である限り欲望があるのは自然なことですが、それが限度を超えて執着になれば問題となります。

怒りは、欲望が満たされない時に生じると言われています。怒りを感じたとき、どんな欲望が潜んでいるか内省するチャンスです。「他者から認められたい」「自分の思い通りにしたい」「自分のものにしたい」などの思いが見つかるかもしれません。

貪欲は、「もっともっと」と貪る心です。貪欲は利己的で自分さえ良ければよく、他人のことを省みしていません。平安や幸福が感じられないのは自己中心だからでしょう。真の喜びはその反対側、すなわち、自己の放棄と犠牲にあります。

他人と比べて優越感を感じたり、劣等感を感じた

り、恐れを感じたりするのは、自分と他人が存在するという迷妄のせいです。優越感、劣等感は自分の中に迷妄があることを教えてくれます。

つまり、悪魔とは神の化身の御教えに反するもの、神の愛に反するもの、アートマに反するもの、良心に反するものだといえるでしょう。

心の探求は、他人の行動を理解する時にも役立ちます。猛烈に自己主張している人は自己承認欲求のなせるわざかもしれません。パワハラをする上司も同様です。国境を越えて軍事侵攻する世界の争いも迷妄と欲望が原因でしょう。

## 3. Fight till the End (最後まで戦い抜きなさい)

さて、次の「最後まで戦い抜きなさい」には少々注意が必要かもしれません。

2023年のグル プールニマーで国際オーガニゼーションのナレンドラナート レッデイ博士は、ビデオ講演の中で次のように述べられています。「敵と戦えば、敵はさらに強力になる」

確かに、自分のネガティブ性を意識して、なきものにしなければいけないと意識をそれに向ければ、それが強化されるのは必定です。

例えば、欲望を落とさなければならぬと強靭な意志の力で欲望に蓋をしたとしても、欲望自体が無くなった訳ではないので、永遠に封じ続けるのは不可能でしょう。欲望は、地下で渦巻いていて気を





緩めれば一気に噴出するかもしれません。

スワミは欲望をなくしなさいとは説かれていません。欲望に限度を設けなさいと説かれています。仏教でも、人間である限り欲望が生じるのは自然なこととしていて、欲望自体を問題視しているわけではありません。ただし、それが問題になるのは、欲望が一定の範囲を超えて執着になることでしょう。

私たちは、実に多くのものに執着しています。例えば、特定の人への執着、物質的な所有や富への執着、自分の考え方や信念への固執、他者からの評価に対する執着などです。また、身体への執着、若さへの執着、健康への執着なども持っています。

それが良識の範囲か執着かは良心に問えば分かるはずですが。それが満たさなければ苦しいと感じることはすべて執着といえるでしょう。

ナレンドラナートレディ博士は欲望を神への欲望に変換させることが大切だと説かれています。神に心を向けて、神ながらの生活をしていれば、ある日気がつけば執着や不要な欲望も落ちていることに気づくことになるのでしょう。

それまでは欲望、怒り、貪欲、迷妄、高慢、嫉妬などの心の中の敵に対して、ABC (Always Be Careful) つまりいつも注意していなければなりません。そして敵を見つけたならば、心を神の方に向け直すことが求められます。

#### 4. Finish the Game (ゲームを終わらせなさい)

人生というゲームに巻き込まれずにゲームを楽しむための方法は、人生を面白いがる目を持つことでしょう。スワミは次のように説かれています。

試合に出ている人たちが、観戦者が味わう喜びと同量の喜びを得ることはありません。ですから、観戦者の態度、つまり、見る者の態度を持ちなさい。試合の最中は、打者も、投手も、野手も、場外のファンたちが得る喜びのごく一部すら味わうことはできません。ファンたちは、一打一打、打撃と守備の失敗や好プレーに目を留めます。試合の細かい点まで正しく評価します。それと同じように、人生というゲームから最大の喜びを引き出すためには、ゲームに深くかかわらなければならない時でさえ、傍観者の態度を培う必要があるのです。

ー マハーシヴァラートリの御講話より  
(1963年2月22日)

そして、人生というゲームを進める上で大切なポイントを次のように説かれています。

人生というゲームは、制限や制御をするための限度と規則がある場合にだけ、行う価値があるものであり、また、楽しくなるものです。サッカー場でのルールも制限もないサッカーの試合を想像してごらんください。その試合はまったくの混乱状態になるでしょう。自由な戦いになって、暴動と化してしまうでしょう。誰が勝ったのか、どのようにして勝った

のか言える人もいません。ダルマ マールガ〔ダルマの道〕とブラフマ マールガ〔ブラフマンの道〕は、場の境界線です。徳のある人は邪悪な性向と戦います。「ファウル」と「アウト」という警告に注意しながらゲームをしなさい。

ー アナンタプル女子ハイスクール創立記念日の  
御講話より (1960年)

そして人生というゲームを生きる最大の秘訣を次のように説かれています。

愛のない人々は恐れに包まれています。愛は勇気を注入し、冒険を促します。愛は挑戦することを飲みます。もしあなたが主人(良心)に従うならば、あなたは悪魔と対決して、最後まで戦い抜き、ゲームを終わらせることができます。

ー クリスマスの御講話より  
(1981年12月25日)

愛は人生の目的であり、愛は平安と健康に生きる秘訣であり、愛はカリユガという暗黒の時代に生きる人生の導です。

「人生は夢、それに気づきなさい」

「人生は挑戦、挑みなさい」

「人生は愛、楽しみなさい」

「人生はゲーム、プレイしなさい」



# ワカチンナカタ

## プタリーバーイー

ガンディーの母親であるプタリーバーイーは、毎日『コーキラ・ヴラタ』として知られる誓いの儀式を行っていました。儀式が終わるとすぐ、彼女は朝食をとるためにコーキラ鳥（インドのオニカッコウ）が鳴くのを待っていたものでした。ところがある日、彼女は食事をとらないまま長い間カッコウが鳴くのを待っていました。このことに気付いた幼いガンディーは、家の外へ出て行ってカッコウの鳴き声を真似てから、母親にこう言いました。「さあ、カッコウが鳴きましたよ。お母さん、どうかご飯を食べてください」。苦悩を抑えきれなかった母親は、ガンディーの頬をピシャリと平手で叩き、嘆き悲しみました。「こんな嘘つきが生まれてくるなんて、私はいったいどんな罪を犯したのでしょうか！ ああ、神様！ こんな邪悪な嘘つきの息子を生んでしまった私は、なんと罪深い人間なのでしょう！」。そう言って彼女は涙を流しました。母親の言葉に深く心を打たれたガンディーは、母親に約束しました。「お母さん、これから先の人生で、僕はもう決して嘘はつきません」

その当時、母親たちは自分の子供たちの振る舞いを注意深く見守り、子供たちが正しい道から逸れないように努めていたのです。





# ワカチンナカタ

## 模範的な母親



カルカッタの町にある母親と息子が住んでいました。母親は息子に教育を受けさせるため、たくさんの犠牲を払いました。しかしその一方で、息子に強く言い聞かせました。

「愛しい息子よ、世俗の教育を気にかけてはいけません。愚かな人々はあらゆる種類の学問を身につけるけれど、自分が何者であるかをまったく分かっていないのです。ただ勉強するだけでは低俗な道から抜け出すことはできません。学識を身につけても、人はただ論争に引き込まれるだけで完全な英知を学んではいません。なぜ結局は死に至るだけの学問を追い求めるのでしょうか？人は、自分を死から解放にしてくれるものを学ぶべきです。霊性の知識だけが不死へと導くことができます。それは永遠です。世俗の知識は一時的です。生計を立てるためには世俗の教育も必要でしょう。でもこの教育は、限られた欲望と自立した生活を営むためだけに身につけるべきものです。それゆえ、愛しい息子よ、学問を追求すると同時に、霊性の探求も始めなさい」

少年は教育を修了し、小さな仕事に就きました。ある日、その村で祭り（ジャトラ）がありました。村の女たちは最上の服と宝石で身を飾り、祭りに参加しました。少年の母親もぼろぼろの服を着て祭りに出かけました。息子はその姿を見ることに耐えられませんでした。息子は言いました。「お母さん、お母さんはきれいな服も宝石も持っていないのですね。そんな姿を見ていると僕は心苦しいです。どうか、どんな飾りが欲しいかを教えてください、お母さん！」

母親は答えました。「今は答える時ではありません。ふさわしい時が来れば教えましょう」

良い振る舞いと勤勉さのおかげで、その若者は仕事でより高い地位に就くことができました。そして母親のところへ帰り、どんな宝飾品が欲しいかを再び尋ねました。「僕はできる限りのことをしてそれを手に入れましょう」と、若者は言いました。母親は、自分は三つの飾りが欲しいのだけれど、それらが何であるかは後で話すと言いました。

時を経て、息子はとても高い地位に就きました。

もう一度、息子は懇願しました。「お母さん、今では私もいくらかお金を持っています。どうか教えてください、お母さんはどんな宝石をお望みですか？ それをお母さんのために買いましょう」。

母親は言いました。「愛しい息子よ、私は今、宝石を身につけられる状態ではありません。でも私が興味を持っている飾りがいくつもあるので、それが何であるかを教えましょう」

息子を近くに引き寄せて、母親はこう言いました。

「この小さな村では子供たちが遠くの学校まで通わなければならないことを知って、私は悲しく思っています。私が望む一つ目の飾りは、あなたがこの村に小学校を建てることです。二つ目は、村にはちょっとした病気を治してくれる医療機関がありません。私は村人たちの窮状を思って眠れない夜を過ごしています。あなたが村人たちのために小さな病院を建ててくれれば、それが私への二つ目の飾りになるでしょう。三つ目の飾りは、あなたが自分でしなければいけないことです。時が来れば、あなたの評判は高まるかもしれません。もし誰かが『お母様はどなたですか？』と尋ねてくれれば、あなたは私の名を告げるかもしれません。あなたの振る舞いは、母親の名を守るものでなくてはいけません。あなたは自分が受けた教育の恩恵を、他の人々と分かち合わなければいけません。富を追いかけてはなりません。マモン〔物欲の象徴としての富の神〕の崇拝者が神を切望することはありません。神を探し求める者は、富を探し求めないものです。これを厳しく守ることが、私がお母さんから望む三つ目の飾りです」



# サイと共に



ある男子学生が手紙の束の入った箱を持っていました。スワミはそこから一通の手紙を取って、お読みになりました。

スワミ： 一通手紙を読めば十分です。どの手紙にも同じことが書いてあります。

学生： スワミ、どうか全部の手紙をお取りください。学生たちがたくさんのお愛を込めて書きました。

スワミ： （手紙を一通一通取りながら）この箱は次回も使えます。

学生： スワミ、私たちは全員、新入生です。どうか私たちに話しかけてください。

スワミ： ニヶ月経ちました。今では全員、古い学生です。OK、ナマスカルを与えましょう。

学生たち： スワミ、私たちに話しかけてください。

スワミ： （愛らしい微笑を浮かべて）How are you boys? さあ、私はあなたたちに話しかけていますよ。  
（ある教師に）どのクラスですか？

教師： MFM〔Master of Financial Management 財務管理修士課程〕です、スワミ。

スワミ： 財務はとても重要です。昨今では、財務は大変厳しくなっています。それがなぜだか言えますか？

教師： 人々が多くの無駄使いをするからです。

スワミ： そのとおり。人々は、お金と時間とエネルギーを無駄にしています。（ある学生に）どのクラスですか？

学生： MFMです、スワミ。

スワミ： MFMの後は、何がしたいのですか？

学生： ただ、ここにいたいだけです、スワミ。

スワミ： はあ？（ある場所を指差して）あそこでプラティシター〔神像などの安置式や入魂式〕を下さい。

学生： スワミ、どうか21日に大学にいらしてください。

スワミ： なぜですか？

学生： スワミ、MBA〔経営学修士〕の記念日です。

スワミ： MBAの記念日。それで、どうして私が行かなければいけないのですか？ あなたたちは何をするのでですか？ 劇？

学生： はい、スワミ。

スワミ： 劇はプールナチャンドラ講堂でできますね。劇の題名は何ですか？

学生： スワミ、政治・・・（学生が言い終える前に）



スワミ： 政治！政治の劇なら市場で上演しなさい。ここではなく。道徳基準のない政治は・・・

（ビジネス・マネージメント・アカウンティング・ファイナンスの学校の教師である、シュリ・H・J・バギヤ先生に）専門化は良いことですか？

教師： 良くさせることはできます、スワミ。

スワミ： あなたは何の科目を教えているのですか？

教師： プロダクション・マネージメント〔生産管理〕、アナリティカル・テクニク・フォー・マネージメント〔管理のための分析技術〕（ATM）です。

スワミ： プロダクション・マネージメント。来学期には何を教えるつもりですか？

教師： リーダーシップです、スワミ。

スワミ： 誰が理想のリーダーですか？個人の徳性と国の徳性と根本的な徳性を備えている人が理想のリーダーです。今では誰もいません。

学生： スワミ、あなたが理想のリーダーです。

スワミ： 私の学科は全般であり、リーダーシップに限りません。

教師： スワミ、どうか毎週日曜にいらして、授業をしてください。

スワミ： 検討してみましよう。

学生たち：スワミが検討されるなら、それは起こります。

スワミ： クリシュナアシュタミー〔クリシュナ神降誕祭〕の後に返事をします。牛は何頭連れてくるのですか？

学生たち：牛は10頭です、スワミ。

スワミ： たった10頭？私は12頭と言いましたよ。寮監はどこですか？彼は足を怪我しています。化膿しています。

学生たち：スワミ、私たちに話をしてください。

スワミ： Boys, how are you boys? さあ、私は今、あなたたちに話していますよ。

スワミはバイオ・サイエンス学科の一年生の所に行かれた。

学生たち：スワミ、私たちは布林ダーヴァンに行きます。

スワミ： なぜ？

学生たち：バイオ・サイエンスからは、私たち7人が布林ダーヴァン・キャンパスに移ることになりました。

スワミ： ああ、布林ダーヴァンのカレッジには空き部屋がたくさんあります。大きな展示室も空っぽです。ここには場所がありません。過密です。

学生たち：スワミがここにおられるからです。

スワミ： あなた方には布林ダーヴァンでたくさんの機会があります。朝夕のダルシャンに来ることができます。私は学内の男子学生に話をします。ここでは、男子学生たちは夕方しか来ません。（泣いている学生に）泣いてはいけません。私はすぐに布林ダーヴァンに行きますよ。3ヶ月だけです。残り9ヶ月あります。私は行きます。あなたたちは、もっと（バガヴァンと接する）機会を得るでしょう。いつ発つのですか？

学生たち：明日です、スワミ。



スワミ： 明日は行かないように。ここのゴークラアシュタミー（クリシュナ神降誕祭）にいなさい。

学生たち： はい、スワミ。

スワミ： ゴークラアシュタミーの後に行きなさい。

学生： スワミ、テルグの学生は全員行きます。私もブリンダーヴァンに行きたいです。

スワミ： Very Good。行きなさい、行きなさい。Nice。ゴークラアシュタミーの後に行きなさい。

学生たち： ありがとうございます、スワミ。プ拉萨ーダムを、スワミ。

スワミ： あげましょう。（スワミは彼らのためにヴィブーティを物質化させた。副学長であるシュリS・V・ギリに）学生はゴークラアシュタミーの後に送りなさい。男子学生たちにお祭りを楽しませなさい。

副学長： はい、スワミ。

スワミ： 何人ですか？

学生たち： 全部で7人です、スワミ。

スワミ： （副学長に）7人の男子学生を送りない。

学生たち： スワミ、ヴィブーティを。

スワミ： （学生たちにヴィブーティの小袋とパーダナマスカールを与えている間）元気を出しなさい。心配してはいけません。私は（ブリンダーヴァンに）行きます。トライー・セッションをしてあげます。よく勉強しなさい。

学生たち： スワミ、私は落ち込んでいます。

スワミ： 問題ありません。行きなさい。すべては上手くいくでしょう。

Students With Sai: Conversations 1991 to 2000  
pp.243-245



# サイと共に

1998年8月12日の会話



教師： スワミ、学生たちはあなたの教えをよく理解しています。

スワミ： どうして分かるのですか？

教師： スワミ、M. Sc.〔科学修士〕2年の学生たちは、ギーターの第三章に関するすばらしい発表を行いました。

スワミ： （学生たちに）ギーターの第三章は何ですか？

学生たち：カルマ・ヨーガです。

スワミ： その重要なシュローカ〔詩節〕は？

学生： カルマンニューヴァーディカーラス テー〔第2章47節より〕

スワミ： その意味は？（スワミはシュローカ2つを引用して、それらの意味を説明してください）

教師： スワミ、学生たちはディスカッションをしました。彼らはよくやりました。

スワミ： 話すのはとても良いことですが、スワミは実践する人を好みます。

教師： スワミ、学生たちは多大な確信を持って話しました。それは、彼らが実践していることを意味します。

スワミ： いいえ、それはハートから出た言葉ではありません。実践が大切です。  
（ある学生に）あなたがジャンマアシュタミーに連れてくる牛は10頭だけですか？  
（ジャンマアシュタミーあるいはクリシュナアシュタミーと呼ばれるクリシュナ神降誕祭の朝に予定されているマンディルへの

行列の話)

学生： はい、スワミ。

スワミ： 20頭連れてきなさい。  
（あるホスピタル・ボーイ〔病院でのセヴァを担当している学生〕に）あなたはクリシュナアシュタミーに何頭の牛を連れてくるのですか？

ホスピタル・ボーイ： 10頭です、スワミ。

スワミ： 10頭では少なすぎます。20頭連れてきなさい。

ホスピタル・ボーイ： はい、スワミ。

スワミ： ゴークラム〔スワミの牧場〕には牛〔乳牛である雌牛〕は何頭いますか？

ホスピタル・ボーイ： 295頭です。

スワミ： 子牛は？

ホスピタル・ボーイ： 300頭です。

スワミ： あと20人、男子学生を連れてきなさい。子牛は連れてこなくてよろしい。しかし、



子牛がいなければ、雌牛は来ないでしょう。(ですが、) やってみなさい。そのように、牛でさえ、とても大きな愛情を持っているのです。男子学生たちは自分の両親への愛情を持っていません。勉学を終えると、両親を置いてさっさと外国へ飛んでいってしまいます。ガーンディー〔ガンジー〕が英国に行きたがったとき、彼の母は——彼女の名前は？

学生： プタリーバーイーです。

スワミ： 彼女は、最初それを許しませんでした。彼女は息子に3つの約束をさせました。1つ目は肉を食べないこと。2つ目はお酒を飲まないこと。3つ目は女友だちを作らないこと。ガーンディーはそれらを約束して、英国に行きました。

(ある学生に) あなたはMBAですか、それともMFMですか、それとも、カウボーイ〔牛飼い〕 (お祭りでの牛の行列の担当) ですか！！？

学生： スワミ、私たちはあなたの子供です。

スワミ： (サイ・クルワント・ホールに座っている全員を指差して) ごらんなさい、皆、私の子供です。

(別の学生に) あなたは楽隊の練習をしていますか？

学生： いいえ、スワミ。

スワミ： どうして？

学生： 楽器は教官棟 (大学の建物) にあるのです。

スワミ： アナンタプル・キャンパスでは、たくさんの楽器を購入しました。私にさえ知らせずにです。彼女たちはよく練習しています。今度の誕生日〔降誕祭〕に、彼女たちは楽隊の演奏をします。小学校にまで楽隊があります。今年は楽隊の男子学生のうち14人が卒業しました。それでどうやって演奏するつもりですか？

学生： スワミ、新しい学生を選出しました。

スワミ： 彼らはどうですか？ (楽隊の新しい学生たちが前に出てきて、スワミは彼らにパーダナマスカールをお与えになった)

スワミ： (数週間前に仕事部屋を移ったばかりの前副学長のヴェーンカタラーマン博士に) どうして彼らに楽器を与えなかったのですか？

ヴェーンカタラーマン博士： スワミ、試験の最中でした。

スワミ： 今、試験は終わっています。彼らに楽器を与えなさい。

(ある教師に) あなたは何を勉強しているのですか？

教師： 今は教えています。

スワミ： どの教科を？

教師： スワミ、数学です。

スワミ： 研究をしているのですか？ 私たちの教育機関では、皆、2年以内に研究を終えていますよ！ あなたはいつ、M.Sc.〔科学修士〕を終えたのですか？

教師： 6年前です。

Students With Sai: Conversations 1991 to 2000  
pp.245-247



# ベジタリアン クッキング

## メティアルー 豆苗とポテトのインドカレー



シンプルで作りやすいインドの家庭料理です！メティは豆科の植物で、老化を遅らせ、心臓や胃腸を健康に保つ効果があります。代用可能な豆苗にも同じ効果があります。インドでは白ごはんだけでなく、ロティ（チャパティ）とも一緒に食べます。是非、一緒にお召し上がりください。

### 【材料】(2~3人分)

・メティ（豆苗で代用OK）	1束
・玉ねぎ	1個
・じゃがいも	中4個
・トマト	1個
・ニンニク	6~7片
・コリアンダーパウダー	小さじ1
・塩	小さじ1
・ターメリックパウダー	小さじ1/2
・レッドチリパウダー	小さじ1
・サラダ油	大さじ3
・水	大さじ3

### 【作り方】

- ① 玉ねぎはみじん切りする。
- ② メティは切って洗う。（今回は豆苗で代用）
- ③ にんにくをみじん切りにする。
- ④ じゃがいもは皮つきのまま小さめにカットする。
- ⑤ トマトをみじん切りにする。
- ⑥ フライパンに油を引き玉ねぎが色づくまで炒める。
- ⑦ みじん切りしたにんにくを加えよく炒め混ぜる。
- ⑧ じゃがいもを加え2分ほど炒める。
- ⑨ 塩、ターメリックパウダー、レッドチリパウダー、コリアンダーパウダーを加えよく混ぜ合わせる。
- ⑩ ここでメティ（又は豆苗）を加えよく混ぜる。
- ⑪ 切ったトマトを加え蓋をする。
- ⑫ 5分経ったら蓋を取りかき混ぜる。

⑬ 水を大さじ3杯加えさらに5分煮る。

⑭ じゃがいもに火が通るまで弱火でじっくり煮る。

自然の豊かな恵みに感謝して頂きます。

### 御言葉

感覚には健康的な食物を与えねばなりません。それには、神聖なことを聴き、神聖なるものを見、真実で善良なことを語るということが必要です。健康的な食物を口から摂るだけでは十分ではありません。感覚を通して摂取するもの全てが清浄である必要があります。

- プラサード P70、3行目



# 帰依者体験談



神戸センターにて

Sis. Anusha Pradhan (アヌシャ・プラダン)

プロフィール：インドの西ベンガル州の町カリボン (Kalimpong) 出身。2012年 シュリサティヤサイ大学 (アナンタープール女子カレッジ) を卒業。2015年 SMITを卒業後、2019年 九州工業大学にて化学の博士号を取得。2019年～2023年国立北陸先端科学技術大学院大学にて、博士研究員として過ごす。現在は大阪大学勤務。専門はリチウムイオン電池。

オームサイラム

マザーサイの神聖な蓮の御足に身を捧げます。

私の名前はアヌシャ・プラダんで、2009年から2012年までシュリサティヤサイ大学アナンタープールキャンパス (アナンタープール女子カレッジ) で学びました。そこで学んでいる間、私はスワミの教えをたくさん吸収することができました。

私たちの学生生活には、心と体の健康を訓練するための日課がありました。一日はスップラバータムから始まり、ヨガのセッションが続きます。それから、それぞれのクラスごとに大学に行きます。授業が終わると寮に戻り、またスポーツの準備をします。その後、バジャンセッションを行い、夕食をとります。その後で勉強の時間があり、夜のお祈り後に眠ります。さらに、時間管理や新しいことを学ぶために、たくさんの課外活動もありました。

この日課は、私たちに時間管理の大切さを教えてくれました。自分の体と心を大切にすることを教えられ、同時に、先生や生徒たちによる多くのセヴァ活動も行われました。それでは、私の日本での生活とサイの活動についてお話したいと思います。

私は2016年に日本に来ました。それ以来、ここで様々なサイの活動に関わる機会を頂き、スワミに心から感謝しています。日本で最初に住んだのは北九州でした。私は帰依者から北九州サイセンターを

紹介され、バジャンセッションやセヴァ (掃除など) の活動に積極的に参加しました。それらの活動は私に平安と幸福を私に与えてくれ、人々の幸福への愛が、私の心に生まれました。

また、福岡サイセンターをよく訪れ、そこでもナーラーヤナセヴァを含む様々なスピリチュアルな活動が行われていました。分かち合い、与える喜びは、私に計り知れない喜びと満足感、充実感を与えてくれました。これが、サイセンターを訪れるたびに家に持ち帰る幸せでした。

その後、2019年に私は石川県に引っ越しました。そこでも私はサイファミリーに迎えられました。バジャンセッション、レディース活動、セヴァ活動、スタディサークルなどを通して、私はスワミに近づいていきました。



金沢サイレディース



女性たちの活動には、スピリチュアルなリサイタルやバジャンを学んだり、海岸を掃除したり、ナーラヤナ様のためにマスクを作ったりすることなどがありました。マスク作りと言えば、スワミとのちょっとした出来事というか、体験をお話ししたいと思います。

2020年3月7日、私の夢にスワミが現れました。スワミはダルシヤンの時間にヤジュールマンディール（お住まい）から車椅子で、クルワントホールに向かってお出ましになりました。しかし、スワミはひどく苦しんでおられ、背中を約45度の角度で椅子に預けておられました。そして驚いたことに、スワミが、マスク（COVID-19用の製品の1つ）をしておられたのです。車椅子に座り、お顔にマスクをされたまま、スワミはクルワントホールの女性側を通り過ぎられました。そして私は、他の多くの女性帰依者たちと一緒にそこに座っていたのです。スワミは道を横切られるとき、とても寛大なまなざしで私を見ておられました。しばらくして、スワミはマスクもせずに、また歩いて女性側に戻られました。しかし、スワミはまた同じように寛大なまなざしで私を見ておられる場面で、夢は終わりました。

金沢のサイレディースたちの支援と統率力により、私たちはスワミの夢を現実に実行しようとしてきました。金沢のサイレディース全員がホームレスの人々のために手作りのマスクを用意し、名古屋サイセンターの帰依者たちに送り、段取りと配布は名古屋の

帰依者たちによって行われました。私はこの神聖な夢を実行に移す特権と祝福を感じました。コロナウィルスのピーク時にスワミの夢を実現するために貴重な時間を割いてくださった金沢サイファミリー、金沢サイレディースに感謝します。



名古屋でのナーラーヤナ セヴァ

長年日本に住んでいますが、今年大阪に引っ越ししました。サイファミリーの一員であることは、どこに行ってもサイとのつながりを保つのに役立っています。神戸と大阪のサイセンターを訪れたことがありますが、バジャンセッションに参加するたびに経験する至福と平安は、私をスワミに近づけてくれます。平和と調和を広めてくれているスワミと、ここの帰依者たちにとっても感謝しています。

スワミが私達一人ひとりに望んでおられる使命を遂行できるように願っています。私はスピリチュアルに強くなり、行く先々で幸せと平和を広めたい

と願っています。私はただ今を生き、神の存在を感じたいのです。  
ジェイサイラム



海岸清掃セヴァ



サティヤサイサナータナ サムスクルティ  
(永遠の遺産博物館) の定礎式展にて



## 帰依者体験談

### 神は困っている帰依者を 放っては置かない

- 新型コロナ感染にスワミの恩寵 -

東京サイセンター  
清野 哲生

オーム・シュリ・サイラム

私が初めて東京サイセンターに伺ったのは、1994年の全国大会のチラシを貰うことがきっかけでした。そのときの大会では、来日したヒスロップ博士が講演されていました。

1996年には、グループルニマに参加するため、プッタパルティにも行きました。帰国後からは献血セヴァに参加するようになり、ナーラヤナセヴァやサイラムニュースの発送セヴァにも携わってきました。

そして、新型コロナ第5波が収束し始めた2021年9月のことです。毎日新型コロナ関連のニュースが一日中流れており、私も十分気をつけていましたが、新型コロナに感染してしまったのです。まだオミクロン株が登場する前の、感染症による死の影が色濃いころでのことです。ワクチン接種も2回済ませていましたので、とても動揺しました。

私は仕事の拘束時間が長いので、休日は大切なリフレッシュの時間です。休日には完全に気持ちを切り替えるために、東京を離れて海へ写真を撮りに行ったり、運動不足を解消するためのウォーキングをしていました。

ある日のこと、三浦半島の海辺沿いを長距離ウォーキングしての帰りの電車の中で、普段の疲れとは違う、体がやけに重くなっているのを感じていました。シートに座ると東京まで眠りこけてしまい、なんでこんなに体が重いのか、不思議に思えて仕方ありませんでした。

翌日、午前中の仕事を終えて昼近くになったとき、それは突然襲ってきました。体の芯に少し何かの衝撃を感じて、急に気分が悪くなりました。熱っぽく感じたので体温計で計ったところ、ピタリ37度5分の数字でした。「やられた」と思いました。

すぐさま#7119に電話して、発熱外来を調べて電話しましたが、どの大病院、どの大学病院からも断られてしまい、一瞬途方に暮れました。

どうすれば良いのかを考えていると、スーッと体

が軽くなり、体温を計ると平熱に戻っていました。安堵したのも束の間、しばらくしてまたズンと重くなり、再度計るとまた37度5分に上がっていました。

大病院はあきらめて、近所のクリニックに電話すると、町内の別のクリニックが発熱外来を担当していると紹介され、そのクリニックで診察してもらえることになりました。そこでは、たんに解熱剤と咳止めを処方されて、診察が終ろうとしていました。

医師にPCR検査を要望しましたが、ワクチンを2回打っているのだから必要ないと言われました。それでも強くお願いして、ようやく検査をしてもらえました。翌日、検査結果を「陽性でした」と告げた、医師の沈んだ声が印象的でした。

私は保健所預かりになるため、「保健所の指示に従ってください」と言われ、その指示を自宅で待ちました。処方された解熱剤と咳止めを服用したお陰で、体は少し楽になっていましたが、連絡を待つ間、不安な気持ちを抑えることはできませんでした。

そのうち保健所から連絡があり、入院かホテル療養、もしくは自宅療養か、今、保健所で検討しているのでもう少し待って欲しいとのことでした。

ニュースでは抗体カクテル療法という有効な治療法が話題になっていましたが、貴重な療法なので患者全員が受けられるかどうか分からないという報道がなされていました。

しばらくして、ようやく病院のベッドに空きが



出たので入院できることになったと、保健所から連絡がありました。

会社に連絡して休みの許可をもらい、東京サイセンターのセヴァ仲間にも、当分セヴァに参加できないこと、やりかけのセヴァの後を頼んでおきました。

保健所から迎えの車が来て、後部座席に乗り込みました。その車は、後部座席がビニールで完全に運転席から隔離されており、換気用のパイプが外に出ている、完全隔離の仕様になっていました。

病院に着くと、玄関に医師と看護師が数人待機していて、一列に隊列を組んで看護師、医師、私、看護師の順で病院の中に入りました。その際に、廊下は真ん中を歩くように指示され、壁に近づかない様に行くことと注意されました。

そして部屋に着くと一人で入室し、監禁状態になりました。廊下には一歩も出ることはできないと言われ、クオカードを渡されました。必要な物は全て、看護師が階下の売店で購入してくれるとのことでした。

看護師や医師は映画のシーンのように病室に出入するたびに完全防御服を身に付け、部屋を出るたびにそれをポリバケツの容器に脱ぎ捨てるというシステムでした。そのような異様な雰囲気は初めて経験しました。全ては国費で賄われる患者であり、患者は病院の管理下に置かれ、わがままは許されないという雰囲気でした。

入室してすぐにレントゲンを撮ると言われてベッド

に横になって待っていると、廊下にゴロゴロという音が聞こえてきて、オウムガイのお化けのように大きならせん状の機材が運ばれてきました。移動用のレントゲン撮影機材で、ベッドに横になったまま肺の撮影が行われました。

私の診断結果はすぐに知らされました。肺の一部に1cmほどの肺炎が認められ、中等症1の軽症ということでした。熱を自覚してから、まだ三日しか経っていません。進行の早いのに驚きました。

運のよいことに、パンデミック第5波が収束してきた頃だったので、入院患者が少なかったこともあり、貴重な抗体カクテル療法をしてもらえることになりました。

病院についてから、治療が始まる前にクリニックで処方された、解熱剤と咳止め等の薬剤が没収されました。その薬効が切れると、あの苦しい苦痛が復活しました。これから始まる病院での治療がどういふ効果があるか、素の状態に体を戻して検証すると言ったことでした。

そしてもう一つ、私はセンター活動をしている期間は、長年、菜食を続けていたので、提供される食事にまいていました。魚と肉が交互に出て来るメニューでした。病院管理優先と言われ、それに医療チームの自らの身を守る警戒心からか打ち解けた雰囲気は全くなく、患者とのコミュニケーションも必要最小限という状況で、とても「食事メニューを菜食でお願いします」とは言い出せませんでした。

空腹を感じるほどの食欲もなく、病状からなのか

栄養状態からなのか、体の力が弱くなってきているのを感じていました。それまでに出てきた食事のおかずを、ことごとく手を付けずに残していたのですが、看護師からの問い掛けはありませんでした。

そんな入院生活が数日経過していく中で、その日の夕食前に、ベッドの上でいつものマントラを唱えていると、Bro.小栗からスマホに着信がありました。「どうしました？」と尋ねると、「マントラが聞こえてきたので」という話でした。

コロナに罹ってしまった、という短い会話で電話を終えましたが、その電話の直後から病院中の空気がガラッと変わりました。看護師や医師たちの顔が柔和になったのです。

その後の食事が出たおかずは、またもやキャベツの量が極端に少ない豚肉のキャベツ炒めでした。しかしながら、看護師がそのまま残されているおかずを見ている雰囲気、話しかけられる状況があるのを感じました。

「実は、食欲が無いのではなく、長年、菜食をしまして・・・」と言うと、「おかずを残していることがずっと気になっていました」と看護師が言い始めました。体調が悪くて残していると思っていたと。そしてすぐに、調理係に特別食に切り替える手はずをしてくれました。

自分で交渉して解決したかも知れないし、治療とは直接関係ない、生きるか死ぬかの状況にいる患者には、とても些細な問題かも知れません。しかしな



がら、困っている中あのように空気がガラッと変わった瞬間、スワミの愛が届いたのだと実感しました。そして、人間は愛を受け取ると、こうも変わるのだとも実感しました。

それからの食事は、豆腐や野菜炒めの大盛りなど、サービス満点のおかずで大満足でした。おそらく、このような患者への親切な対応が本来の医療スタッフの姿なのに、コロナ治療という極度の異常な緊張と警戒心で固くなってしまっていたのだなと思いました。

スワミの言う愛の偉大な力を実体感できるように、見せてもらった気がしました。人間に愛が満たされると、こうも違うものかと感心させられる出来事でした。

そして又、巨大オウム貝のような機材がゴロゴロと運ばれてきて、二度目のレントゲン撮影がありました。血液検査も行われ、治療の効果を診断することになりました。

抗体カクテル療法のお陰か、そのほかにも行っていた療法も合わせてのことなのか、なんと二日後には退院できるという結果でした。入院して5日目のことでした。肺炎は解消され、コロナは陰性になっていました。

逆ジェットコースターに乗った気分で、どんどん急坂を下がっていき、破滅の地底に到着するかと思っていると、急に方向転換して急角度で上昇して、明るい青空の雲の上に出た、という気分でした。

コロナに罹る運命だったとしても、スワミはその時期を第5波の収束期に調整して、入院を可能にしてくださいました。治療の便宜も図ってくださり、抗体カクテルを使えるようにして、一週間で退院できたのでした。さらに抗体値を異常に高い数値まで上げて、退院後にコロナに罹りにくい体にしてくださったのです。スワミはすべてのことが安全に運ぶように、配慮してくださったと思っています。

「苦痛や困難は神からのプレゼントです」という御言葉があります。困難を通り抜けると明るい方へと導かれていくのだ、ということを実感せずにはいられない体験でした。

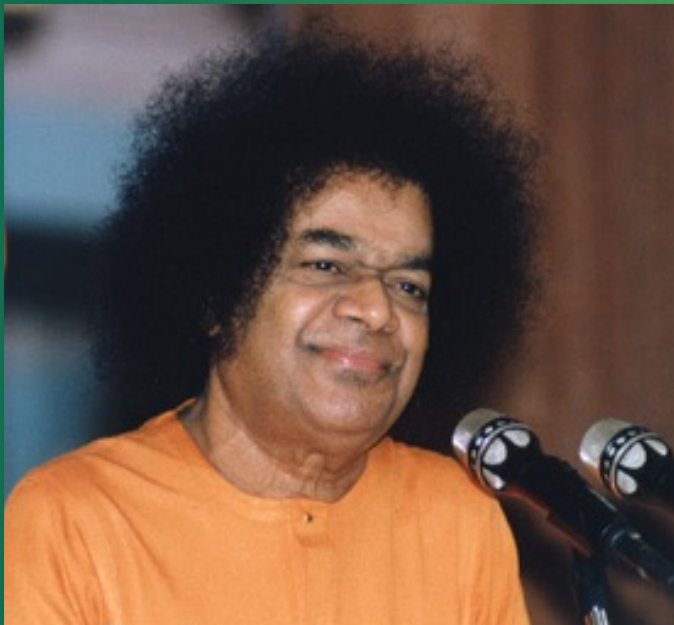
感謝、感謝、合掌





## <活動報告>

### スタディーサークル



開催日：2022年2月16日（水）

テーマ：プレーマヴァーヒニー第17節、第23節「疑い深い人々と無知な人々を避けなさい」、「サンスクリット語とヴェーダ文化の学習を冷笑してはならない」

参加者：41名

質問：

- ① 霊的求道者として（第17節に記述されているような）霊的向上への障害を避けるために、どのように振る舞えばよいか？
- ② 帰依の道を歩もうとする求道者へのあざけりや批判から遠ざかっているにはどのようにすればよいか？
- ③ サンスクリットやヴェーダ※1文化の知識と実生活の体験はどのような関係にあるか？

<参加者のコメント>

… ① 霊的求道者として（第17節に記述されているような）霊的向上への障害を避けるために、どのように振る舞えばよいか？

「何かに夢中になっていれば、周りの人もその人が何か没頭していると分かって周囲も整ってく

ると思う。小さい例だが、昨年のスタディーサークルで節制のプログラムに関して、缶ジュースを買うのをやめれば、その分お金が節制できると聞いた直後に、私は缶ジュースを買うのをやめたことを職場で言うと、『缶コーヒーでなくてジュースとかならないの?』と周りが逆にそう言ってくれた。」

… ② 帰依の道を歩もうとする求道者へのあざけりや批判から遠ざかっているにはどのようにすればよいか？

「日蓮上人はいろいろな人から誤解を受けたり、嫌なことを言われていたが、惑わされないで純粋な信念をもち続けて貫き通すと、必ずそれは分かってもらえる時がくる、という内容のテレビ番組を見た。純粋に貫き通すということが必要なのだろうと思った。」

「信仰というものは他人に見せるためのものではないと思うので、周りに言う必要はないが、一緒に暮らす人や、身近な人には、説明する必要があると思う。相手と状況を見てそれを話すのが一番良いと思う。また、本当に熱心なスワミ※2の帰依者だった方が途中でいろいろな情報から疑いを持ち、出ていった時、その人は善意のつもりで、私に一生懸命いろいろなことを言って説得しようとした。私自身は、まず他の方の生き方や考えも尊重する必要が必



ずあると思っている。私の中の神様はサイ・ババと呼ばれることを全然嫌がっていないし、喜んでいいるから、私は今のままでいようと思うと答えると、その方は自分も否定されていないし、私の行動を尊重してくれるようになった。まずはあまり周りに言う必要はないということと、信仰が違う方への批判をこちらからもしないということがとても大切なことのような気がする。」

「まず、いろいろな批判とか嘲りなどの反応はずっとあるものだと思う。反対に称賛とか感謝もある。それらの思いは、それを発している側の方で、自分のものではない。それらの言葉は、それを発している人、称賛や非難を発している人を証明している言葉になると思う。そして、その言葉に反応している自分が、どういう反応をしているのかということも、一つの自分を知るきっかけにもなる。その人の言葉はいずれにしても、非常に役に立つ。私たちはまだまだ、霊性の途上を歩いている段階だと思うので、やはりそういう批判に対しては心が反応してしまうことがあるが、そのときにこそ、神と共に生きているという、あるいは神と手を繋いで生きているとか、自分の神の方にフォーカスすることによって、周りの現象がどうであれ、それをまた違った目で見ることができないのではないかと思う。少し俯瞰したり、自分の

中に愛が満ちていれば、周りにどういう嘲りや批判があったとしても、それに巻き込まれないのではないかと感じた。」

… ③ サンスクリットやヴェーダ※1文化の知識と実生活の体験はどのような関係にあるか？

「私は日蓮宗の家庭で育ち法華経を学んできて、日蓮宗のパールヴィカスクラス（子どもの開花教室）のようなところで子供の頃お経を唱えていた。法華経では、法華経を信じて布教するものは本当に苦労してこの世の中では非難されるだろうと予見されていた。しかし弟子たちは『それでも構わ

ない、信じることこそ最上の功德である』と理解していて今日まで続いている。法華経の学びがあったおかげで、スワミに導かれてヴェーダに出会ったと思っている。ヴェーダのパワーというのが本当にすごいということは分かるし、帰依者の方の息子さんやお嬢さんの病気が治るなどのたくさんの奇跡が起きていて、本当にヴェーダは大事だなと思った。」

「例えばおもしろいテレビを見た後やおいしいものを食べた後など、この世的に楽しい経験をしたときには、後には空虚さが残る。その空虚さを埋め合わせるためにまた見たい、もっと食べたいと思うようになってしまう。今私が実践している

のが、空虚さを感じたときにヴェーダを唱えたりマントラ（真言）を唱えたりすると、その埋め合わせが必ずできると感じている。」

<サイの学生のコメント>

… ① 霊的求道者として（第17節に記述されているような）霊的向上への障害を避けるために、どのように振る舞えばよいか？

「霊的な道においては、自分自身が障害になっていることが多いと思う。外側のものが影響しているように見えるのは、自分自身が十分に強くないときなのではないだろうか。もちろんスワミは悪い仲間を避け善い仲間といなさいとおっしゃるが、それ以前に私たち自身が強くあってポジティブな態度を環境に関わらずに貫けるようになることが大事だと思う。私たちが直面するほとんどの問題の理由は、私たちの中に六つの悪い性質（六つの敵）※3が混在しているということ。私たちと一緒に働いている人や家族などを私たちは変えることができない。私たちができる唯一のことは私たちの中にある六つの性質に対処して、自分自身がより良くなること。たとえば環境を変えてみたり、周りの人を変えてみても、別のところに行ったらもう一度同じ問題に出くわしてしまう。それは周りが原因ではなく、自分の内側のことが原因だっ



たということになる。もし周りのことが非常にネガティブに見えると、一体何がネガティブを作り出しているのだろうか、自分の中の何がそのように見ているのだろうか、フォーカスしていくことで変えていくことができる。例えばスワミがおっしゃっているが、帰依者の皆さんが（プッタ）パルティ※4に来られる時に、何かを期待して来られる。ダルシャン※5を得たいとかパーダナマスカール※6したいとか、何かを物質化して欲しいとか。その一方で、もしスワミが一瞥もくれなかったなら、いや彼は神でないとか、スワミはお金や地位のある人にしか見向きもしないとか、そんなことを言うようになり、スワミを責めたり、ネガティブになってプッタパルティに来なくなり、心も落ち着きがなくなってしまう。フォーカスが外側の環境の方に向いているから、スワミが全然見てくれないととても悲しくなる。それはこうして欲しいと期待をもっているから、期待がなくなれば全然問題がなくなる。そういった自分の内側の期待が原因であると探し当てて、それを変えるということ。スワミがおっしゃるように外側にあるものは何も影響しえないということ。私たちが霊的にいかに内側で強くいられるのかということ。私たち自身が最大の霊的な旅路の障害で、私たちが障害だということ。」

「特定の人々に自分とは違うところがあると、避けるようになったりすることがある。しばしば他の人がどのように振る舞っているか、関心をもって眺めることがあると思うが、考えていたのと違う振る舞いがあれば批判するようになったりしてしまう。自分自身も多かれ少なかれ、他の人々が振る舞っていることに干渉をしないようにしたり、他の人がどう振る舞っているかということに対して、過大な関心をもたないように思っている。他人ではなく、自分自身がどのように義務を果たしているのかということに焦点を当てていきたい。そして他人のことを嘲ったりする人は誰でもその人の時間を無駄にしていると思う。その一方で霊的な求道者たちは、時間を最も効果的に使っている人々だと思う。そういった意味で、霊性修行を行うということこそがすべきことで、他人を嘲たり批判したりするのは最もすべきことでない。霊的な求道者も、何かゴールに辿り着こうとして一生懸命努力をするが、そのプロセスにおいては、非常に多くの批判などにも直面していくことになる。でも、そういった状況においても求道者は自分自身の義務だけを考えていくべきだと思う。」

… ② 帰依の道を歩もうとする求道者へのあざけりや批判から遠ざかっているにはどのようにすれば良いか？

「実践していることの不履行を避けることだと思う。善良であることと、神にフォーカスしていく必要がある。周りの称賛や批判を気にも留めないことが大事。幸せなときとそうでないときとの揺らぎを小さくしていくこと。嫌なことや、善くないことがあっても悲しんだり、揺らぎを避け、不動心をもっていることが必要。過去を思いわずらったり未来を心配することを避ける必要がある。今この瞬間だけを霊的な求道者として考えている必要がある。そしてネガティブに考えることを避け、霊的なことに取り組み、ポジティブを作り上げていく必要がある。世俗的な楽しみをさし控える必要がある。世俗的なことにおいても不注意を避けていかなければならない。」

「一体どうやって他の人の嘲りや批判とか、そういうものを避けることなどができるだろうかということ。もう一つは、実際に、その嘲りとか批判が行われたときに、どうやってそれを無視することができるだろうかということ。これらの二つの状況に対して何か対応しよう、何か反応しようとするのは求道者にとって良くないことだと思う。例えば、もし私たちが誰かよりも優れていると感じるのであれば、あるいはもし自分たちの方が他者よりも道徳的で倫理的であると思うのであれば、自分の実践が他者と比べてずっと良いと考えるだろうと思う。そのような思いが他者を非難



する元になる。そして、それが嘲りだとか批判ということになってくる。そのような思いが生じる原因はエゴ。一つ目は他人を判断したり責めたり嘲ったり批判したりしないということ。また、もし何かのメッセージを批判的に伝えなければならぬ状況があったとするならば、それをスワミがおっしゃるように可能な限り親切に伝える必要があるだろうと思う。そして、誰かが嘲ったり批判したりしたときに、他者から批判をされた場合には、その過ちが自分の中に有るのか無いのかということを考える必要がある。間違いが自分にあるならば、その間違いを正すことができる。もし、間違いが自分がないのであれば、それを問題にする必要はない。」

### … ③ サンスクリットやヴェーダ※1文化の知識と実生活の体験はどのような関係にあるか？

「もちろんサンスクリットやヴェーダの知識を知っているだけでは十分ではなく、日々の実践の中にそれを持ち込むことができなければならないだろうと思う。そして皆さんおっしゃっているように、ヴェーダやサンスクリットの知識というのは非常に高次の知識だが、ただそれを覚えるというだけではそこからエッセンスを引き出すことはできないだろうと思う。例えば、皆スタディーサークルに定期的に参加し、その日に話し合われ

ている章についていろいろな人が話している意見を聞いたりする。そのように学んだことが実践に移されなければ、学ぶことのすべてに感謝の念を抱くことには至らないと思う。先ほど言ったように、他者がいろいろな行為をしているときにそれに干渉しないとか、一歩ひいてそれを見ることはとても必要なことだと思った。今日このようなスタディーサークルをしても、なお他人を嘲ったり批判したりすることがあるなら、こういったスタディーサークルで学んだことを生かせていないということになる。いろいろな文献のテキストを覚えても、それを実践しなければ意味がないということになる。」

「あるところに僧侶がいて毎日バガヴァッドギター※7を唱えていた。そのシローカ※8の意味は『いつも困難に陥ったときには神の御名を唱えなさい。そうすれば間違いなく神様が助けてくれることでしょう』という意味だった。牛乳配達人が牛乳を届けにやってくると僧侶はすぐに怒りだして、配達人に『なぜ今日は遅れたのか』と叱りつけた。配達人は『来る途中で渡ってくる川に大きな石が落ちていたから、それで遅れました』と言った。僧侶はまだ怒っていたが、『それならわかった。明日はもっと早く来なさい』と言った。次の日、配達人は早く家を出たが、また川に石が落ちていた。牛乳配達人は前の日に怒られたこと

を思い出して怖くなった。その時、前日に僧侶の家で聞いたシローカを思い出した。それは、困難があったときには神の御名を唱えれば間違いなく助けてくれるというシローカだった。彼はそれから神の御名を唱え始めると時間通りに僧侶の家に着くことができた。すると僧侶が『今日も同じように川の中に石があっただろうに、どうして今日は時間通りに来られたのか？』と聞いた。配達人は『今日は神の御名を唱えたおかげでちょうど時間通りに着くことができたのです』と答えた。僧侶はそれを聞いてショックを受けた。そんなことが本当に可能なら自分自身で試してみたいと思った。でも実際に僧侶がそれを試してみようとしたところ、水が冷たすぎてうまく歩くことができず、滑って転びひどいけがを負ってしまった。その様子を見ていた牛乳配達人は、『ただ唱えることはまったく重要ではない、そのシローカの言っていることをちゃんと信じて実際に実践することが大事なのだ』と理解した。」



ババ様の御言葉

「バガヴァッド ギターも、この宇宙のすべてのものに神性が浸透していると明言しています。バガヴァッド ギターは、霊性の本質は唯一性であると宣言しています。それを認識する代わりに、人々は他人を批判することにふけています。神性はすべてのものの中に隠れているのですから、他人を批判することは神を批判することに等しいのです。」

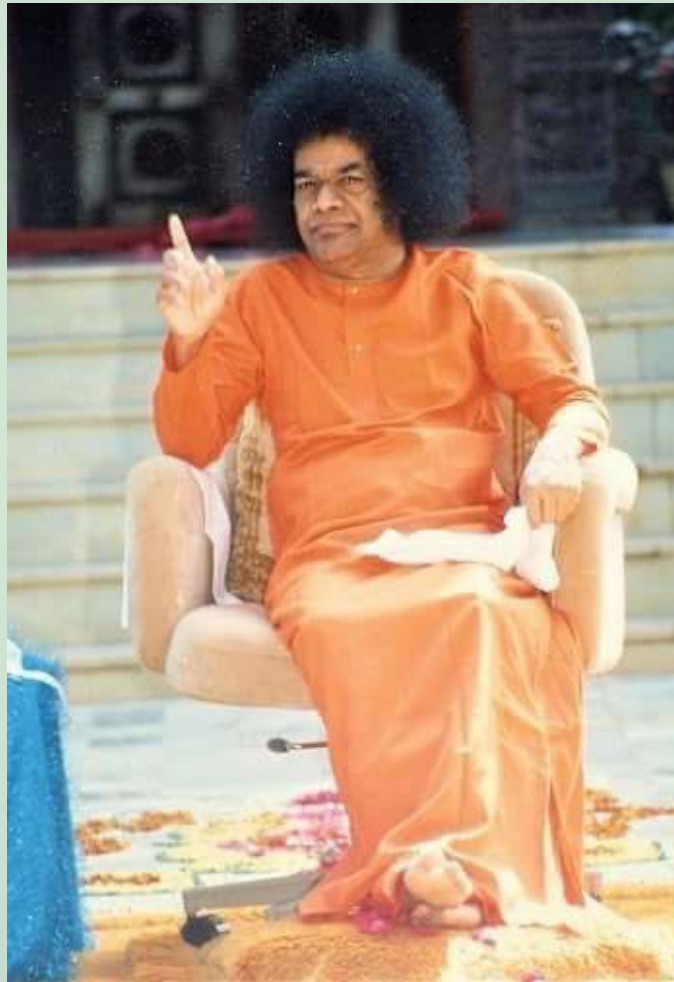
2000年10月1日

[https://sathyasai.jp/discourses/discourses/d\\_20001001.html](https://sathyasai.jp/discourses/discourses/d_20001001.html)

- ※1 ヴェーダ：神聖な真理の言葉、神の息吹の集成であり、古代インドの聖賢たちによって視覚化された。もとは一つだったものをヴィヤーサ仙がヤジュル ヴェーダ、リグ ヴェーダ、アタルヴァ ヴェーダ、サーマ ヴェーダの四つに編纂した。
- ※2 スワミ：聖者などの尊称、ここではサイ・ババ様のこと。
- ※3 六つの敵：カーマ〔欲望／情欲〕、クロダ〔怒り〕、ローバ〔貪欲(どんよく)〕、モーハ〔愛執(あいしゅう)・妄想・執着〕、マダ〔高慢(こうまん)・自惚れ〕、マーツツアルヤ〔嫉妬(しつと)あるいは憎しみ〕。
- ※4 プッターバルティ：スワミの生誕地であり本拠地である町の名前。
- ※5 ダルシャン：聖者や神を拝見すること。
- ※6 パーダナマスカール：御足への礼拝、帰命頂礼(きみょうちょうらい)。聖者や両親などの足に平伏して行う礼拝。
- ※7 バガヴァットギター：インドの大叙事詩『マハーバー

ラタ』の中の詩。マハーバーラタの戦いの前にマーヤーによって戦う意気を失ったアルジュナにクリシュナが説いた御教え。

※8 シローカ：詩節、心を楽しませる同じ音節をもつ四つの句で組み立てられた詩節。



開催日：2022年3月3日(木)

テーマ：プレーマヴァーヒニー第34節、第42節

「立ち上がり、目覚め、愛と信愛の道を歩みなさい」、「霊性と解脱の道を歩みなさい」

参加者：39名

質問：

- ① 真実、寛容、道徳性、規律等の価値を受け入れるために必要なステップは何であり、どのようにそれらを受け入れることができるのか？
- ② ラーマラージャ(ラーマ※1の王政)とスワミ※2がおっしゃる理想の社会を、闘争と論争のさなかの時代にしながら、どの程度までそれが可能か？
- ③ 神の愛を求めて正しい行いをするのであれば、行動の見返りを求めることにはならないのか？

<参加者のコメント>

… ① 真実、寛容、道徳性、規律等の価値を受け入れるために必要なステップは何であり、どのようにそれらを受け入れることができるのか？

「私の場合はとても悩み苦しんだりして、生きづらさを感じてから本当の真実とは何かを考えるよ



うになった。そしてスワミを知って、スワミの本を読んで、少しずつ真実、寛容、道徳、規律を学び、行動していった。すると徐々に幸福感が増えていった。だから最初は自分が迷っていて、暗闇にいるという自覚から始まると思う。」

「自分自身が少しでも良くなりたいたいという気持ちが起きてきたときに、気づかされるような経験があると思う。ババの本を読む前に『あるヨギの自叙伝』という本に出会った。その本にはものすごい磁力のようなものを感じた。そこには真実が書かれていると思い、それをきっかけにギター※3を読んだり、ババご自身が書かれた本も読むようになった。真実や寛容、道徳性や規律は、最初はおぼろげで、入りきれない感覚はあったが、向上心が目覚めてきた時に自分の中で決心のような思いが強くなった。やはり自分が決心したときがすごく大事だったような気がする。」

… ② ラーマラージャ（ラーマ※1の王政）とスワミ※2がおっしゃる理想の社会を、闘争と論争のさなかの時代にしながら、どの程度までそれが可能か？

「スワミは御自身の講話の中で『全人類の幸せと繁栄を祈って欲しい』、『人類同朋に慈悲を注ぐことのできる者だけが神の恩寵の中に自分の場

所を要求することができます』とおっしゃっていた。だから私や私の国とかではなくて、私たちの社会、私たちの世界は全て神のもので、分け隔てないと思う。私が実際にパルティ※4で見た、スワミの帰依者たちの献身的にセヴァ（奉仕）をされている姿は、本当にプレマ（愛）を体現されていたように思う。スワミ同様に、帰依者がとにかくすばらしいと私はパルティに行く前から友人に聞かされていた。スワミのご意志のあるところと思うまで、スワミの道具として真面目にやらなければならないと思う。」

「今ウクライナが攻められている。こんな戦争が起こっている大変な状況だが、それでも世界中で、平和を願ってデモが行われている。大変な戦いの中でも人類愛のような、人間の本当に底に大きな愛があるのだといろいろなところで感じる。いかに愛を信じられるのかという点は、もちろんそこには信仰があると思うが、本当に愛を信じる力が支えになっていくと思った。」

… ③ 神の愛を求めて正しい行いをするのであれば、行動の見返りを求めることにはならないのか？

「正しい行い自体がダルマ（正義）でダルマにはアートマダルマ※5とアーチャーラダルマ※6

という二つの種類があって、内側からの促しが良心そのもので、それ自体が神だと思うし、そのうえで行動することが大事だと思った。」

「神の愛を求めて行動するのなら、それが見返りを求めているのかどうかはわからないが、全然良いと思う。それはスワミも喜ばれると思う。」

<サイの学生のコメント>

… ① 真実、寛容、道徳性、規律等の価値を受け入れるために必要なステップは何であり、どのようにそれらを受け入れることができるのか？

「基本的に真実、寛容性、道徳性、規律はもともと人間に備わっている。言葉を覚えたばかりの子供は決して嘘をつかないのは、幼い子供でも彼らなりに逸れないような規律をもっているからだ。もし不道徳性があるなら、外から入ってくるということ。私たちは誰かを喜ばせるために嘘をついたり、あるいは何かの幸せや一時的な幸せを得るために、良くない行いをしてしまうかも知れない。それによって友人や家族が喜ぶことがあるかもしれないが、決して神様はハッピーではない。真実、寛容、道徳性、規律などの価値すべての実践において同じことがいえる。道から逸れることの唯一の解決は、やはりこういった道を辿ろうと決意す



ること。それが解決法だと思う。何らかの状況や事情によってこれらの道に従っていきることができない場合は、スワミにこれらの道を実際に辿っていけるようお祈りすることが大切。自分の理解ではそういった決意がこれらの道に従って行くために必要だと思う。」

「これらの特質はもともと人間に備わっていて、それらは神の性質であるとスワミはおっしゃっている。これらの神聖な特質は社会が進んでいくうちに失われてしまった。なぜかという神への愛と罪への恐れを失ってしまったからだスワミがおっしゃっている。その代わり人間は神を恐れて罪を好むようになってしまった。また気を付けなければいけないのは、真実、寛容、道徳、規律は、ともすると邪悪な六つの性質（6つの敵）※7の一つひとつに置き換えられてしまう危険があるということ。それらの悪い特質を抜き取っていく方法は、神の御名を唱えたり、サットサング（善人との親交）の中にいるようにすること。始めるのに決して遅すぎることはない。早く出発して、ゆっくり運転して、安全に到達しなさいとおっしゃっている。サーダナ（霊性修行）をとおしてのみこれらの性質を培っていくことができる。」

… ② ラーマラージャ（ラーマ※1の王政）とスワミ※2がおっしゃる理想の社会を、闘争と論争のさなかの時代にいながら、どの程度までそれが可能か？

「もちろんラーマラージャというのは本当の理想。どんな個人であれ社会であれ、もし神がその中心であったのなら、理想に近付いていくと思う。それは決して文字通り本当にラーマがやってきて統治してくれるという訳ではないが、私たちが内側においてラーマからいつも導きをいただくことによって、その理想に近付いていくということだと思う。これまでもたくさんのアヴァター（神の化身）が降臨されたが、正にスワミはこの時代にやって来られて、この時代に適したルールというもの、道を敷いてくださった。時も移ろい、人々の生活様式や、人々の考え方のプロセスもすべて変わってしまった。ラーマの時代から、クリシュナ神※8の時代、スワミの時代へと非常に多くのことが変化した。時間は移ろっているが、ラーマやクリシュナ神や、スワミのそれぞれから、異なった良い部分を受け入れながら、それを私たちの中に取り込んでいくことによって私たちが理想に近付いていくと思う。科学の世界でも、よく理想という言葉があるが、大抵は現実の世界では外界から別のファクターがいろいろ入ってしまっ、決して理想にはならない。実験には必ず誤差

がある。外から様々な邪魔が入って理想にはなりにくい。本当に私たちが神というものを一番優先順位が高いものとして据えるのであれば、理想の社会に変わっていくだろうと思う。」

「ラーマは非常に善良で皆から神として崇拝されていたが、その一方で決して神様のように生きられた方ではなかった。ラーマは決して何か多くの奇跡を行ったりだとか、超常現象的なことを起こしたり、自分の神性を示すためにそういったことを一切されなかった方だった。自分は正直に言う、ラーマのことを神だと感じるのではなく、理想の人間だと感じている。人間社会において、その王国を上手く統治することができるのは、本当にその統治者の神なる性質によってのみ、そうすることができるものだと思う。ラーマが他者の意見を尊重すれば、王がそうするとすべての人々も他者のことを尊重するようになっていった。私たちは、私たちが称賛するものに等しくなっていく。」

… ③ 神の愛を求めて正しい行いをするのであれば、行動の見返りを求めることにはならないのか？



「私たちは神の愛を求めて行動するのではなく、ただ人々が幸せであることを望んで行動すべきだと思う。それは人への奉仕が神への奉仕ということだから。もし私たちの行動が人々を喜ばせるのであればそれは神様が幸せでいらっしゃることを保証してくれると思う。私たちの良心に従うことがさらに大事なことです。正しいことを行っていれば必ず神様が幸せでいてくださるということは保証されると思う。」

「人間にとっての最大の達成というのは神への愛をもつことだと思う。自分の場合にはいろんな行動を神の愛が欲しいと思ってすることは大いにある。例えば、もし自分の行動を神様はそれをお好きだろうか、それを嫌うだろうかと考えることが、自分自身の行動に対しての指標になっていると思う。神の愛を得るということは、どんな人間にとっても最大の達成だと思う。そしてそれが人生の目的でもあると思う。だから神の愛が欲しいから行動することは何も間違っていないと思う。そのように考えて社会に良い行いをしていくのなら非常に良いこと。」

「神の愛を求めて正しい行いをすることは間違っていないし、自分もそうしてきた。それに加えて、本当に神様とは一体誰でいらっしゃるのかという理解が、私たちにとってもインパクトを与えること

だと思う。もし神様という存在が写真の中だけの存在だと思ってしまうのなら、そこに納まっているだけの神様の愛をいただいてもあまり嬉しいことではなくなってしまうかもしれない。神様と私自身や他のすべての人々を同じく等しいものと考えれば、神様の愛を求めることは決して間違っていないと思う。神様をどう理解するかによって、そして神の愛というものの理解がポイントだと思う。」

ババ様の御言葉

「あなたは神から来ました。あなたは神の栄光の火花です。あなたは至福の海の波の一つです。あなたは、再び神に帰融する時、初めて平安を手に入れるでしょう。道に迷った子供のように、あなたは母と再会した時、初めて喜びを得ることができるのです。海の滴は、蒸発して上昇し、雲と呼ばれる集合体と一つになって地上に降り、谷に沿って流れ、最終的に海へと辿(たど)り着きます。それと同じように、あなたが見失ってしまった海へ辿り着きなさい。その旅を始め、早く、軽快に旅をしなさい。」

1966年10月17日

※1 ラーマ：トレーターユガにおける神の化身、美徳と正しい行いにおける最高の模範。  
 ※2 スワミ：聖者などの尊称、ここではサイ・ババ様のこと。  
 ※3 ギーター(バガヴァットギーター)：インドの大叙事詩『マハーバーラタ』の中の詩。マハーバーラタの戦いの前にマヤーによって戦う意気を失ったアルジュナにクリシュナが説いた御教え。

※4 バルティ：プッタバルティのこと。スワミの生誕地であり本拠地である町の名前。

※5 アートマダルマ：神我のダルマ、神のダルマ「真のダルマとは、アートマの至福、内的ヴィジョン、自分の本質は絶対者と同じであるという揺るぎない信仰、そして、すべてはブラフマンであるという認識に包まれていることです。この四つこそ正真正銘のダルマです。特定の個人という身体としての存在に対し、実践の便宜上、この四つには名前がつけられています。(しかしそれでもなお、内に秘められた、アートマの実在というダルマに満たされています)。その名前とは真理、平安、愛、非暴力です。絶対実在が人格化されたものである個人は、日常生活の中でこれらに従うことができます。過去も現在も、ダルマの追求方法とは、何をするときも、何を考えるときも、この崇高な原則を堅く守ることです。今日の真理、平安、非暴力、愛とは、絶えずアートマに浸ることであり、内的真理を捉えて離さないヴィジョン、自己の本質への瞑想、すべては唯一無二のブラフマンであるという認識に間断なく浸ることに他なりません。根本的なものと派生的なものを統合し、調和させなければなりません。そのときにのみ、それをアートマダルマと呼ぶことができるのです」『生きる道 ダルマヴァヒニ』p26

※6 アーチャーラダルマ：実践的なダルマ。「一時的な、身体的必要性に関係しています。つまり人間と現実世界との束の間の関わり合いに関係するものです。これらの規律を守るための実際の道具である人間の身体は不変のものではありません。それなら実践的ダルマはどうして永遠でありえるのでしょうか？そのようなダルマの本質がどうして真理であると言えるのでしょうか？消え去っていくものに永遠のものは表せません。」『生きる道 ダルマヴァヒニ』P18

※7 六つの敵：カーマ〔欲望/情欲〕、クローダ〔怒り〕、ローバ〔貪欲(どんよく)〕、モーハ〔愛執(あいしゅう)・妄想・執着〕、マダ〔高慢(こうまん)・自惚れ〕、マーツツアルヤ〔嫉妬(しつと)あるいは憎しみ〕。  
 六つの敵：カーマ〔欲望/情欲〕、クローダ〔怒り〕、ローバ〔貪欲(どんよく)〕、モーハ〔愛執(あいしゅう)・妄想・執着〕、マダ〔高慢(こうまん)・自惚れ〕、マーツツアルヤ〔嫉妬(しつと)あるいは憎しみ〕。

※8 クリシュナ神：ヴィシュヌ神の化身、ドワーパラユガにおける神の化身 純粋な愛の具現。



開催日：2022年3月9日（水）

テーマ：プレーマヴァーヒニー第45節、第46節「一途な信愛と心の平静を実践しなさい」、「自惚れと疑念を避けなさい」

参加者：51名

質問：

① 一点集中と平静さは、どのように好き嫌いからの脱却につながるか？

② 「もし世界に不和があるように見えるのであれば、それはあなたの中にある欠点のせいなのです。もしすべてが一つの愛（プレーマ）として見えるのであれば、それもまたあなたの愛ゆえです」この原理を最大限活かすには、どうすれば良いか？

③ 疑念に苛まれるときにも、自分の実在のなかにはっきり留まるには何が必要か？

<参加者のコメント>

… ① 一点集中と平静さは、どのように好き嫌いからの脱却につながるか？

「好き嫌いの原因は、自分が世の中の方に向いて、外側の世界に惹かれると、そこに何か好きなものができてしまい、逆に嫌いなものができたりする。

周囲の世界ではなく、スワミ※1に一点集中することによって一貫性が得られ、好き嫌いからの脱却につながるのではないかと思う。」

「一点集中により自分の心が穏やかなときは自我意識がほとんどなくなり、対象に集中することによって私というものを忘れるので、自我意識から出てくる好き嫌いはなくなっていくと思う。」

「つい先日、務めている鉄道会社で一日に2回人身事故があり、2回目はなかなか電車の運転が回復せず、騒々しい状況だった。列車の運転を司っている運輸指令があり、私の上司が今日の指令は下手くそなどと文句を言い始め、その司令と運転手のやり取りが聞こえ、指令側が運転者に怒っているなど、混乱した状況におかれていた。その時に、ふと、この状況もスワミが作りだしているのだと思ってスワミに集中すると、その途端にちょうど改札口に立っている方から『すみません、定期の買い方が分からないので教えてください』と言われ、その場を離れて、そのお客さんに定期の買い方を教えた。そういう騒々しい状況においても神に集中していれば、奉仕の機会を与えていただけた。騒々しい状況でも神に一点集中することによって切り抜けられるのかなと思った。」

… ② 「もし世界に不和があるように見えるのであれば、それはあなたの中にある欠点のせいなのです。もしすべてが一つの愛（プレーマ）として見えるのであれば、それもまたあなたの愛ゆえです」この原理を最大限活かすには、どうすれば良いか？

「まず自分の欠点を見つけ、きちんとそれを把握し、それを取り除きたいと思うことが大事。全託をしていると、何もかもババがご存知で、進んで行くべき道、やるべきことなどを知らず知らずに歩ませていただけるような気がする。愛を拡大したり、愛に生きるということを本当に生活の中で実践していけるようになることだと思う。最初、東京センターに行った帰りにお弁当をいただいた。無料と知らず驚き、このお弁当をどのように作って、たくさんの人々に配っているのだろうと過程のことを考えた。やがて大阪センターでナーラーヤナ セヴァ※2に参加するようになった際、おにぎりを作って、ナーラーヤナ様（ホームレスの方々）のところに持って行って配ることをいざやってみると、幸せで、上下で考えるような気持ちがどんどん無くなり、純粹になれる気がした。セヴァを神に捧げ、集中していると自然に浄化されていくのではないかと思う。」



「自分の五感やマインドに指示を出せるほどの強い知性と意志の強さをもたなくてはならないと思う。純粋な意識を培うという準備が常に必要だと思う。そのためには理想的な生活の技法、真理、正義、平安、愛、非暴力というものに満ちた生活を日頃から心がけて守っていくということ。また暴力的な傾向や、そそのかしたりする先導的な方法を避ける知性も必要だと思う。今日のスライドの中にあつたプンダリーカ※3のように、心のなかの美しさを求めるべきで、外界の華やかさを追い求めてはいけないと思う。」

… ③ 疑念に苛まれるときにも、自分の実在のなかにしっかり留まるには何が必要か？

「疑念に苛まれるということは、自分が思ってもいない意外な反応が返ってきたりすること。良いことや愛だと思って行っていたことが、この世間的な偽りの愛の取り引きを経て、思ってもみなかつたものが返ってきたときに、どうしてかなと思う。平静さがあるときに、純粋な愛ではなかつたかもしれないと気づくことができるのかなと思った。」

<サイの学生のコメント>

… ① 一点集中と平静さは、どのように好き嫌いからの脱却につながるか？

「自分の意見では平静であるということと好き嫌いが無いということは、同じこと。その一歩手前の一点集中がなぜ平静さに繋がるのかという部分について考えたい。それに関してもスワミが話してくださった。ある時ナーラダ※4がヴィシュヌ神※5に『あなたから見て偉大な帰依者とは誰か？』と聞いたときに、ヴィシュヌ神がある農夫を指さして『彼が最高の帰依者だ』とおっしゃった。それでしばらくナーラダはその農夫の様子を見ていたが、その後でヴィシュヌ神のところに戻ってきて、『見ている限りその農夫はまったくあなたの御名をずっと唱えていない。その間、私はあなたの御名をずっと唱えていました。なぜ農夫が私より良い帰依者であると言い切れるのでしょうか？』と言った。そうするとヴィシュヌはナーラダにすべき仕事を与えた。仕事とはナーラダの頭の上に水瓶を置いて一滴も水をこぼさないで宇宙を一周歩いてくるというものだった。ナーラダはその仕事を終えてヴィシュヌのもとへ帰ってきた。その時にヴィシュヌがナーラダに『行って帰ってくるまでの間に何回御名を唱えたか？』と聞くと『今日はまったく唱えることができませんでした。

なぜなら一日ずっとその水瓶に集中していたからです。』とナーラダは答えた。このことが何を示しているかということ、私たちが何かフォーカスして集中している間は他のすべてのことを忘れてしまっているということ。もし私たちが一点集中をもって自分の人生の中で職業的なことや霊的なことなど、何か一つの側面に一点集中したのであれば、それ以外のことに気持ちが流れることを止めることができるということ。私たちが本来あるべき道筋から逸れた時にそういった好き嫌いが生じてくる。一点集中を身に着けることができれば、好きとか嫌いなど霊性から逸れることを防ぐことができる。」

「スワミは『本当の帰依者とはどういうことか？』と聞いていらっしゃる。幸せであろうと良くないとき、勝利のとき、敗北のときであろうと、同じ気持ちでいられるならば真の帰依者であるとスワミがおっしゃっている。バガヴァッドギター※6の中でも平静でいることができる人がゴールに早く到達できると言っている。ではどうやって平静を達成するのか。一つの平静の形は、良いものだけでなく、悪いものを含めてすべてを神様に捧げることだとスワミはおっしゃっている。神様は悪いものは底の方にしまって、そこから良いものを引き出すことができる鞆のようなもの。スワミのたとえによれば、悪いものはすべて預け



てしまって、代わりに良いものをいただくことができ、そうすればゴールに近づく旅ができる。でも悪い特質のすべてを神様に捧げることは可能だろうか？それをするには悪い性質とは何なのか理解し、まず、これは自分の悪い性質なのだとして受け入れなければならない。自分にはこういうエゴがあっても良いのだと思ってしまうと、それが悪いものであると認識して神様に預けることができなくなってしまう。では、エゴをどうやって減らすかという行為者意識を減らすことによって。どうやって行為者意識を減らせるのだろうか？それは私たち自身が既に神の一部なのだとして『ソーハム※7』と絶えず思い出していることによって。私たちは身体でもなく心でもなく、『ソーハム』、私は神であると覚えておくための集中力が必要になる。スワミは瞑想は真実を知るための一つの方法であるとおっしゃる。瞑想は一点集中的な神への集中に他ならない。一点集中的に私は神であると集中できたならば、そのようなやり方でエゴを減らすこと、自分の行為者意識を減らすことができ、平静に繋がっていくだろうと思う。」

… ① 一点集中と平静さは、どのように好き嫌いからの脱却につながるか？

… ② 「もし世界に不和があるように見えるのであれば、それはあなたの中にある欠点のせいなのです。もしすべてが一つの愛（プレーマ）として見えるのであれば、それもまたあなたの愛ゆえです」この原理を最大限活かすには、どうすれば良いか？

「誰に対してもいかなる偏見ももつべきではない。まず霊的な求道者としては誰に対しても心を開いていること。霊性においては、私たちは自分自身の色々な言葉や行動を識別して行動しなければならない。もし偏見をもっていたなら、何も自分自身の欠点を見つけることができないし、自分自身が成長していくことができない。そして私たちは誰に対しても判断したり、他者の欠点を見つけたりしてはいけないと思う。オープンマインドというものが、他者を受け入れることにおいて役立っていくと思う。今日、一番目の質問において学んだ平静というものが、他者の中に欠点を見つけた時にも冷静でいることを助けてくれるだろうと思う。他者の中に欠点を見た時に、では自分のどこに欠点があるから、それを見つけたのかを考えることが私たちを助け、また利益のあることだと思う。そして自分自身の欠点を見つけることが

霊性修行者にとって、かなり優先順位の高い動機であるべき。二つ目に、誰かが間違いを犯した場合、私たちがすでに設定したルールに誰かが違反した時には、それを受け入れるべきではないと思う。2つのシナリオのもと、単純に欠点を見るかどうかという所においてはオープンマインドであるべきで、既に設定してあるルールを破る人がいる場合には見過ごしてはいけないと思う。」

… ② 「もし世界に不和があるように見えるのであれば、それはあなたの中にある欠点のせいなのです。もしすべてが一つの愛（プレーマ）として見えるのであれば、それもまたあなたの愛ゆえです」この原理を最大限活かすには、どうすれば良いか？

「私たちは物事を異なった視点から見る。例えばラーマヤナ※8では、ハヌマーン※9がシーター※10を探しにランカー※11に行った時に、ハヌマーンはその時非常に怒っていたため、ランカーは黄金の街だったが、それを観ても美しさを味わったりすることができなかった。どれほどランカーの街が美しかったとしても、それはどのような見方をするかにかかっている。もし美しいものであったとしても、そのことにケチをつける理由を探すことになってしまう。つまり私たちがどのように物を見るのかということ。それは日常生



活からも理解することができる。もし何か間違っているなら、または何か良くないことが起きたら、一度そこを離れてみるることができる。そこから学ぶことができれば私たちは成長することができる。決して世界が悪いところだと考えるべきではない。世の中にある良いものを探すべきだと思う。それが、私たちがより良い人間になれるのかどうかということだと思う。確かに世の中でたくさん良くないことが起こっているのを目にすることができるが、世界では同時に良いこともたくさん起きている。だから、良いものを見るべきで、私たち自身にインスピレーションを与えていくべきだと思う。そして悪いものを見ないように。それがどのように成長していけるかということだと思う。」

… ③ 疑念に苛まれるときにも、自分の実在のなかにしっかり留まるには何が必要か？

「何か疑念に苛まれた時どうやって幸せでいることができるのか、そういう観点から答えてみたい。人生のいかなる段階においても何かの疑いをもつことは人間としてとても自然なこと。ただ、深く考えたときにだけそのような疑念をもつことがある。たくさん疑念をもつことは良いことではないが、疑念をとおして明らかにすることができることがある。霊性においても多くの種類の疑

念をもつことがあるだろうと思う。ある時には疑念をとおして神の恩寵がもたらされることがあるが、疑念に対して多大な力を与えないようにする必要がある。また、やはり疑念は信仰によって解決することができ、私たちはまた人生において幸せになっていくことができると思う。」

ババ様の御言葉

「創造世界のすべてのものを、善と見なさない。苦しみや痛みも善です！期せずして痛みや苦しみを経験したら、「これは私にとって善いことだ、これは私にとって善いことだ」と自分に言い聞かせなさい。称賛も非難も同じように扱い、たとえ人から罵倒されても平気でいなさい。これが推奨されるヨーガであり、犠牲を払うことが推奨される道です。平静に優るヨーガはなく、犠牲に優る道はありません。これは、純粋さと神聖さを得るための最良の道です。」

2000年5月15日

[https://sathyasai.jp/discourses/discourses/d\\_20000515pm.html](https://sathyasai.jp/discourses/discourses/d_20000515pm.html)

- ※1 スワミ：聖者などの尊称、ここではサイ・ババ様のこと。
- ※2 ナーラーヤナ セヴァ：人の姿をとった神たちに食事を施す奉仕。
- ※3 ブンダリーカ：両親を神として献身的に仕え、訪ねてこられたパンドゥランガ神を待たせてまで、両親に奉仕した青年。  
[https://sathyasai.jp/discourses/discourses/d\\_19870506.html](https://sathyasai.jp/discourses/discourses/d_19870506.html)
- ※4 ナーラダ（仙）：世界に信愛を広めるためにブラフマーが創った聖者。ナーラは「知識」、「ダ」は「与える者」の意。いつも神の御名と栄光を歌っていたことで知られる。ヴィーナの創作者でもあり、ヴィーナを携えて三界を自由に行き来する。
- ※5 ヴィシュヌ神：宇宙を維持し守護する役割を担っている神。
- ※6 バガヴァットギーター：インドの大叙事詩『マハーバーラタ』の中の詩。マハーバーラタの戦いの前にマヤーによって戦う意気を失ったアルジュナにクリシュナが説いた御教え。
- ※7 ソーハム：so=神である、それである aham=私は。私は神である。我は神なり  
我はそれなり。
- ※8 ラーマヤナ：ヴィシュヌ神の化身ラーマの物語。インドを代表する大叙事詩の一つ。
- ※9 ハスマーン：『ラーマヤナ』に登場する猿。ラーマを深く信愛し献身をささげた。風の神の子で空が飛べたため、飛んで菓草をとりに行ったり、海の上を飛んでランカを偵察に行ったりと、多大な貢献をした。
- ※10 シーター：トレーターユガの神の化身ラーマ王子の妃、妻としての理想のダルマを世に示した。
- ※11 ランカー：『ラーマヤナ』の悪鬼ラーヴァナの王国。





## <活動報告>



### 盛岡グループ

#### 盛岡グループ発足20周年記念祭報告

オーム シュリ サイラム

2003年6月、盛岡グループは発足しました。そして6月18日(日)、20周年記念祭が行われました。当日は東京からお招きしたBro.Oを含めて合計11人が集い、スタディーサークル(ババ様の御教え勉強会)やバジャン(神への讃歌)をスワミ※1に捧げました。

20周年記念祭にあたり、何をテーマにするか事前にグループ内で話し合った結果、「終活」「霊性修行」「クシャマ(忍耐、寛容)」というキーワードが出されました。それをもとにBro.Oにスワミの御言葉をご準備いただき、スタディーサークルを行いました。

まず、はじめに、現在世界中で注目されている生成AI「ChatGPT」を使って、いくつかのテーマについてスワミがどのように説いておられるか検索しました。Bro.Oが質問事項をパソコンの画面に打ち込むと数秒で、しかも自然な日本語でまとまった返答が作成されるので、全員があっけにとられました。これは蓄積されたデータを瞬時に整理し、つなぎ合わせて作られるものだそうです。生成AIはその点で長けているものの、人間のようには御言葉を糧に霊的に成長し、最終的に解脱することはできない、ということがBro.Oより語られ

ました。周囲と協力してセヴァ(奉仕)を行うのも人間だからこそできることであり、人として生まれてきた目的を問い直す機会になりました。次に「身体・肉体」についてのスワミの御言葉を読み、それについて意見を交わしました。いくつか御言葉のうち、「・・・肉体の執着を手放すことはとても簡単です。どうして人々がそれをできないのか私には不思議でなりません!」という御言葉に多くの参加者から、ため息が漏れました。例えば空腹感、家族や愛する人への強い思いも肉体への執着としてとらえるならば、手放すのは簡単ではないことです。一方で肉体への執着があるが故に苦しみや悲しみは深くなるのではないかと、という意見も出され、手放すべきもの、そうではないものを感じ取ることの大切さについて考える時間となりました。

次にクシャマについての御言葉を読み、「クシャマがなければ何が起きるか?」といったテーマで話し合いました。「それが無いと最終的に欲望が増大して自分で自分を壊すことになる」「神への畏れがクシャマの根本として必要ではないか」

「言葉遣いなどの技術的なことではなく、もっと根本的な霊的成長の要素がクシャマではないか」「そもそも何に対して、クシャマが必要なのか、周囲か、自分か」「クシャマが必要なのは感情やエゴを手放すためではないか」「耐え忍んで何も主張しないのはクシャマの解釈として正しいこと



なのか」など、たくさんの意見、疑問が出ました。話し合いの最後の段階で「クシャマを『愛』に置き換えてみると、見えてくるものがあるのでは？」という意見が出されました。「クシャマ」をテーマに、一人ひとりが新たな気づきを与えられる機会となりました。

最後に「全託」に関する次の御言葉を読み合わせた後に話し合いを行いました。「活動のすべてを神に捧げ、活動を主の仕事を見なし、神へのゆるぎない信仰をもって活動を遂行すれば、わずかな努力が努力なしでも成功を勝ち取ることができます。人間の努力では何事も起きないことを固く確信しなさい。」——その中で「では、そもそも努力とは一体何なのか？」といった疑問が出され、それに対してBro. Oから「努力の主体は誰でしょうね？」という投げかけがありました。それを踏まえ「自分の行為を神様と一致させようとするのが大切ではないか」「霊性修行を積み重ねることで神様に導かれ、成功につながるのではないか」といった意見が出されました。自分の行動の「行為者」を常に意識することが私たちにできる「努力」ではないかと感じさせられました。

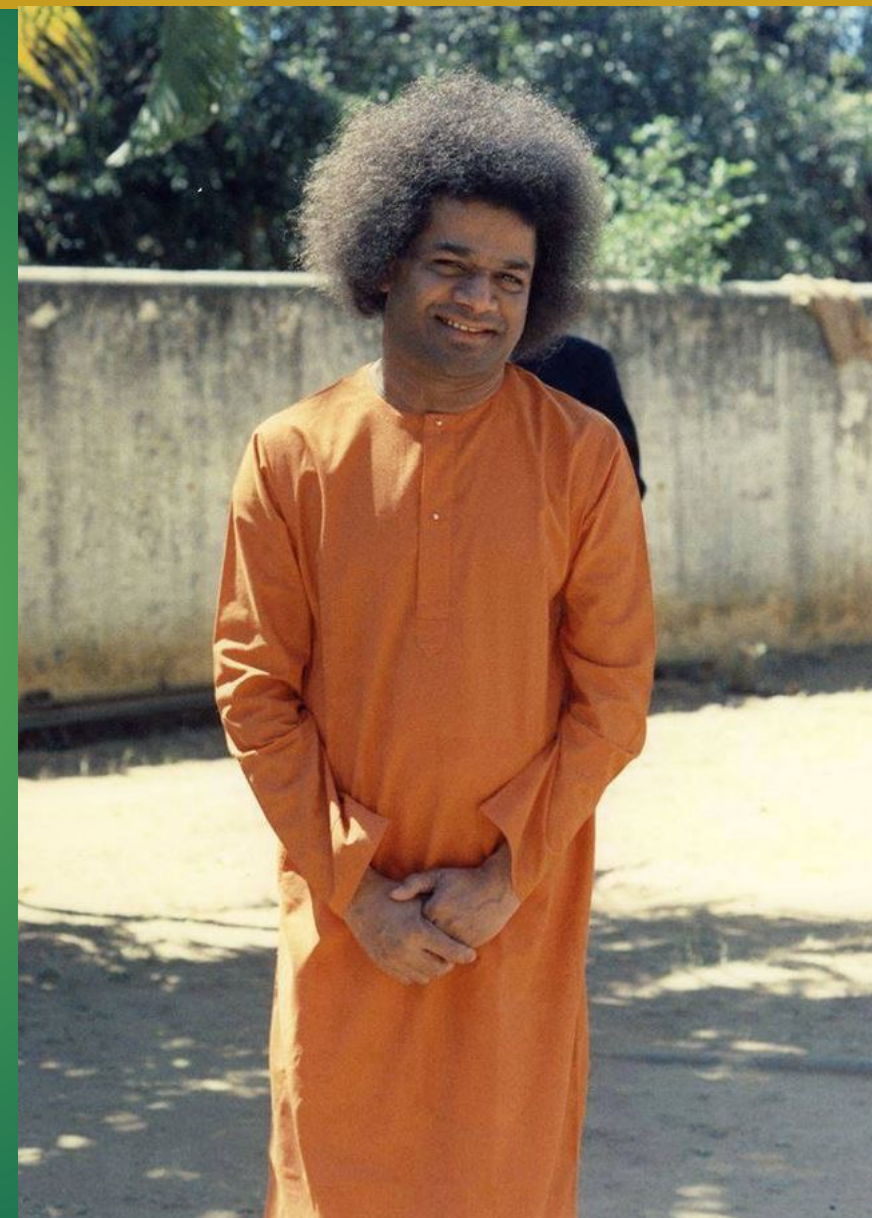
最後に、無事にこの日を迎えて兄弟姉妹が集い、気づきを深めることができたことへの感謝を込めてバジャンを捧げ、記念祭は終了しました。

今回はスタディーサークルの意義についても改めて考える機会となりました。Bro. Oから翻訳の限界についてお話がありました。御言葉はいくつかの言語を経て翻訳されるため日本語訳が真の意味を捉えているとは限らないということです。それゆえスタディーサークルで意見を共有することで真の御言葉の意味を立体的に捉えることができるのだそうです。「輝きを放つダイヤモンドの一面一面をみんなで見つけて共有する場」「正しい、間違いはない気づきの場」というお話をいただき、改めてその意義を実感できたひとときとなりました。

盛岡グループではスワミ御降誕100周年記念ビジョンに関する目標を「一人ひとりが自分は何者か？を問い続け、その気づきを共有する」としています。今回の記念祭はまさにその場となったように思います。今後も「自分は何者か？」という問いを持ち続けながら21年目の歩みを進めていきます。

サイラム

※1スワミ：聖者などの尊称、ここではサイ・ババ様のこと。







ビブーティー

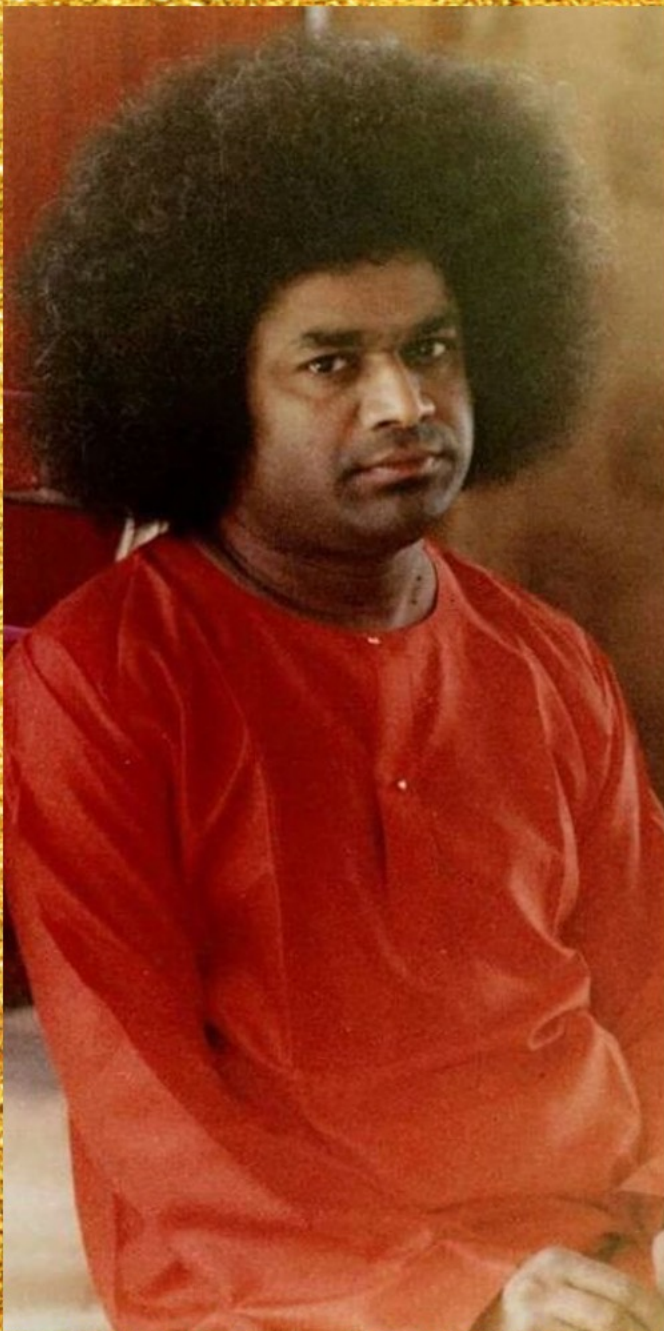


全体の様子



色鮮やかな菜食弁当

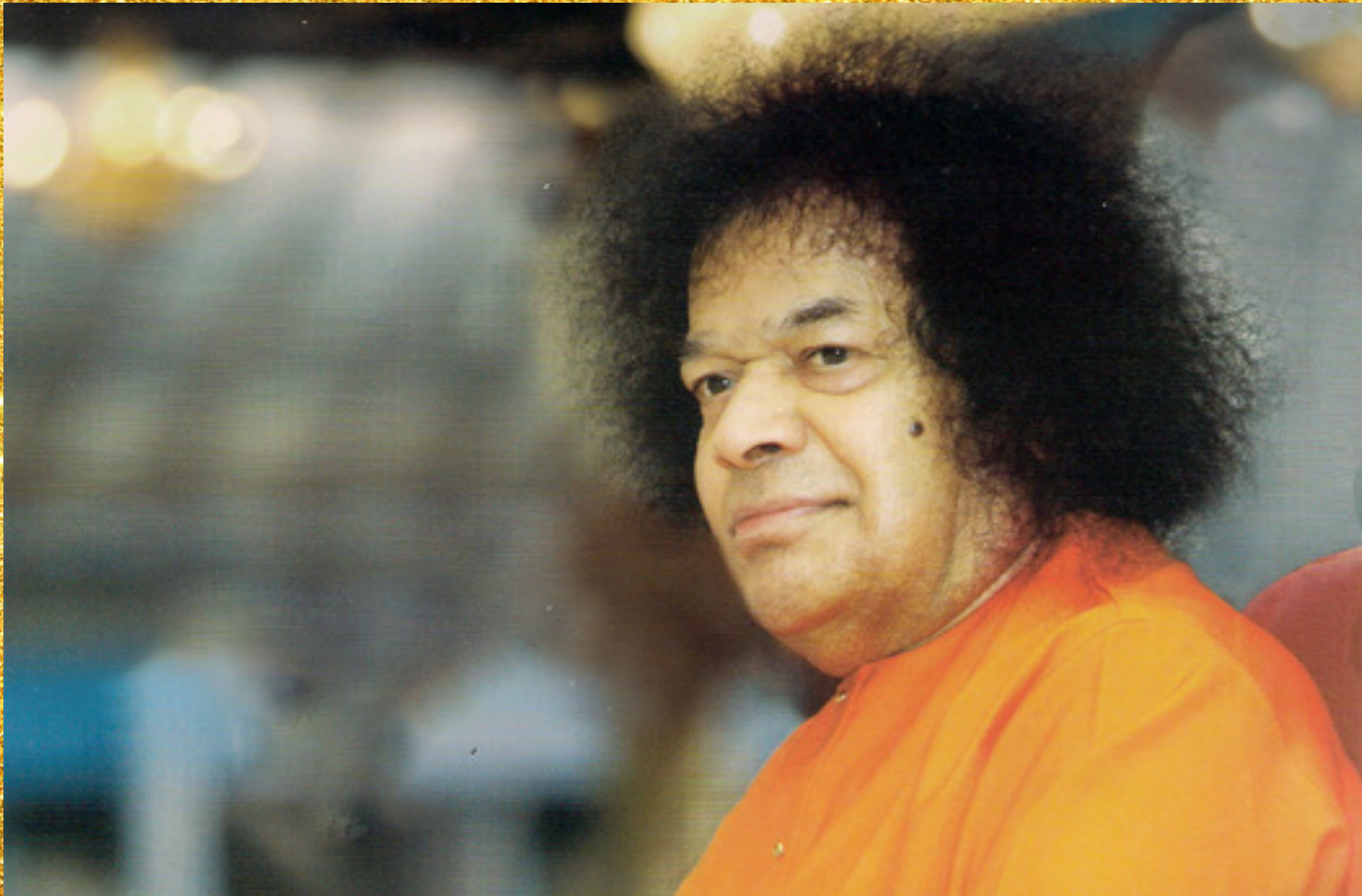




私たちは家族を養うために十分なお金を持っていなければなりません。ある程度は社会にも援助しなければなりません。私たちは社会の中で生活しています。社会がなければ生きていけません。ですから、私たちは社会に感謝を示さなければなりません。まず、「真我（セルフ）self」それから「援助（ヘルプ）help」です。人間性はこの二つが存在して初めて存続します。利己的であってはなりません。「利己的であること（セルフィッシュ）selfish」より「魚（フィッシュ）fish」のほうがましだと言われています。私たちは社会で無私の奉仕を行いながら、幸せな生活を送らなければなりません。

BABA





Jai Sai Ram